

2015 こです HOKKAIDO

**Collected papers
Domestic Science
Studies**

北海道高等学校長協会家庭部会

2015こです「HOKKAIDO」

目 次

○ 巻 頭 挨拶	北海道高等学校長協会家庭部会長 北海道江別高等学校長	小 松 芳 幸	1
○ 「社会の変化に対応する力を育てる家庭科教育」	北海道教育庁十勝教育局教育支援課高等学校教育指導班指導主事	佐 紺 摂 子 様	2
I 平成26年度家庭部会の報告			
◆平成26年度全国高等学校長協会家庭部会総会・研究協議会報告	北海道高等学校長協会家庭部会長 北海道江別高等学校長	小 松 芳 幸	3
◆平成26年度北海道高等学校家庭科教育研究協議会報告			
1 第63回北海道高等学校家庭科教育研究協議会を終えて	北海道高等学校家庭科教育研究協議会会長 北海道洞爺高等学校長	佐々木 淑 子	5
2 オリエンテーション	北海道洞爺高等学校長	佐々木 淑 子	7
3 研究発表			
提言1 「テーマ 成長期の体と心を育む食生活について」 ～自らの課題を見出し健康的な大人を目指すための取り組み～」	発表者 北海道滝上高等学校教諭	山 本 史 江	9
提言2 「テーマ フードデザイン授業における地域との連携について」	発表者 北海道滝川西高等学校教諭	福 間 あゆみ	10
提言3 「テーマ これまでとこれからの家庭科教育～本校での実践を中心にして～」	発表者 北海道稚内高等学校教諭	川 端 暖 加	11
第1分科会報告	報告者 北海道中標津高等学校教諭	芝 田 愛 佳	12
第2分科会報告	報告者 北海道月形高等学校教諭	菊 池 美 穂	13
第3分科会報告	報告者 北海道小樽商業高等学校教諭	角 井 愛 美	14
4 講 評	北海道教育庁十勝教育局教育支援課高等学校教育指導班 指導主事	佐 紺 摂 子 様	15
5 グループ別体験研修講座報告			
A 環境教育セミナー	北海道静内高等学校教諭	大 森 裕 介	17
B 食育セミナー	北海道月形高等学校教諭	菊 池 美 穂	17
C 住生活セミナー	北海道豊富高等学校教諭	佐 藤 綾	18
D 家庭経済セミナー	北海道野幌高等学校教諭	池 田 麻 子	18
E 服飾文化セミナー	北海道函館工業高等学校教諭	金 沢 久 子	19
F 保育セミナー	北海道恵庭南高等学校教諭	谷 田 幸 恵	19
II 平成26年度北海道高等学校家庭クラブ連盟の活動			
1 北海道高等学校家庭クラブ連盟の活動について	北海道高等学校家庭クラブ連盟成人会長 北海道江別高等学校長	小 松 芳 幸	20

2	第55回全国高等学校家庭クラブ連盟指導者養成講座に参加して 北海道江別高等学校教諭 佐々木 久美子	21
3	第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会北海道代表出場校として ホームプロジェクトの部 北海道札幌北高等学校教諭 田 畑 優香里	22
	学校家庭クラブ活動の部 北海道名寄産業高等学校教諭 榊 原 しほじ	23
4	第62回北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会を終えて 北海道札幌北高等学校教諭 田 畑 優香里	24
III 平成26年度北海道家庭科技術検定委員会の活動		
1	家庭科技術検定の実施について 北海道高等学校家庭科技術検定委員長 北海道当別高等学校長 杉 本 祐 子	25
2	平成26年度全国高等学校家庭科技術検定全国専門委員会に参加して 北海道当別高等学校教諭 村 田 ひろ美	26
IV その他の家庭科教育・研修会等に関する報告		
1	平成26年度第52回北海道高等学校教育研究大会教科別集会家庭部会を終えて 事務局 北海道札幌白石高等学校教諭 北 村 仁 美	27
2	平成26年度北海道産業教育フェア「さんフェア北海道2014」を終えて 北海道江別高等学校教諭 紀 國 明 子	28
3	平成26年度北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表会を開催して 北海道江別高等学校教諭 上 野 博 美	29
4	平成26年度北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表会 最優秀賞 北海道更別農業高等学校教諭 田 中 裕 子 北海道更別農業高等学校3年 竹 内 静	30
5	平成26年度北海道高等学校産業教育意見・体験発表大会に参加して 北海道三笠高等学校教諭 斎 田 雄 司	32
6	平成26年度高等学校初任者研修〔一般研修〕に参加して 北海道函館工業高等学校教諭 高 橋 真 理	33
7	平成26年度10年経験者研修〔教科指導等研修Ⅰ・Ⅱ〕に参加して 北海道北広島西高等学校教諭 瀬 尾 敦 子	34
8	平成26年度北海道高等学校家庭・福祉に関する学科設置校教頭会・科長会研究協議会を終えて 北海道洞爺高等学校教頭 岩 瀬 均 北海道洞爺高等学校教諭 秋 田 貴 子	35
9	平成26年度第15回福祉に関する教科・科目設置校研究協議会を終えて 江陵高等学校長 鈴 木 譲 二	36
V	各地区（ブロック）家庭科研究科の活動状況	37
VI 特別寄稿		
	・「後輩の目標となる元気な家庭科教諭にエール ～家庭部会に感謝を込めて～」 北海道千歳北陽高等学校長 吉 村 恭 子	43
	・「家庭科教育は面白い」 北海道札幌白陵高等学校教諭 伊 槻 久美子	44
○	編集後記 北海道洞爺高等学校長 佐々木 淑 子	45

巻 頭 言

北海道高等学校長協会家庭部会長

(北海道江別高等学校長) 小 松 芳 幸

平成26年度の校長協会家庭部会の活動は、昨年を上回る全道約200校の加盟をいただき、役員、会員の皆様のご協力のもとで、予定していた事業の全てを終了することができました。関係の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

平成25年度より年次進行でスタートした新学習指導要領ですが、昨年11月には早くも次の改訂に向け、文科大臣から中教審へ諮問がされました。中学校における英語のオールイングリッシュ授業や高校の日本史必修化などが今後検討される事になるようです。

現時点において、家庭科に関わる大きな改訂は聞こえてきませんが、新たな情報があった場合は逐次諸会議等を通じて、各学校にお伝えします。早ければ平成28年度中には中教審による審議がとりまとめられ、平成32年度以降小学校から順次スタートすることとなり、高等学校では平成34年度から実施の予定です。

一方、高大接続に関する問題も、昨年末には大きな変化が見られました。現行の大学入試センター試験が廃止の方向となり、それに代わり思考力、判断力、表現力を中心に評価する新テストを導入するという答申が中教審から文科大臣に出されました。しかし、新テストの実施時期や具体的内容、各高校の定期考査や行事との関わりなど熟慮を要する事項が山積状態であり、今後の状況を慎重に見守る必要があります。

いずれにせよ、家庭に関する教科は人の人生という時間に沿ったライフステージごとの課題に対して、衣食住から保育、福祉、高齢者理解、消費生活問題、自らの命を守る技術と知識、生

活・文化等の理解に至るまで、幅広く奥行きのある深い内容を組み合わせて、生徒にたくましく生きる力を育むことを究極のねらいとしている教科です。

我が国は世界に類を見ないスピードで少子高齢化が進み、国の形が大きく変わりつつありますが、変化の激しい予測困難な社会であるからこそ、生徒各自が夢や目標を持ち、前向きな姿勢で生きるために必要な基礎的な力を確実に身につけ、グローバル化する社会に上手に順応して、国内外で幅広く貢献する力の育成が高等学校の学習で求められています。そのような中であって、家庭科教育の重要性は今後ますます重みを増すことを我々は正しく認識する必要があります。

具体的には、①学ぶ楽しさを体感できる授業づくり(生徒の能動的な学習、目新しさの演出、家庭科の授業を受けて良かったと思える授業づくり)②授業力の向上(教材研究、学習スタイルのバリエーション化、教師の人的魅力を高める)③成功体験をさせる④小中高の学習の系統化などを常に念頭に置き、言語活動の充実や指導と評価の一体化に努める必要があります。

さて、次年度は全国高等学校家庭クラブ研究発表大会北海道大会の開催年です。連盟加盟校はもとより、非加盟校の諸先生方にもご協力をいただき、オール北海道の体制で大会の成功を目指しますので、よろしくお願いします。

終わりになりますが、家庭科教育の充実・発展のために、引き続き多くの校長先生に部会加盟をお願い申し上げ、ご挨拶とします。

社会の変化に対応する力を育てる家庭科教育

北海道教育庁十勝教育局教育支援課高等学校教育指導班 指導主事 佐 紺 撰 子

新学習指導要領の実施2年目である今年は、家庭科の男女共修が始まって21年目となる年でもありました。この間、高等学校において家庭科が将来生きていくための課題発見能力や課題解決能力を育む重要な教科であるという認識が深まったものの、他教科との関係から、多くの学校で2単位の「家庭基礎」が必修科目となり、学習内容を定着させる時間を充分にとることができないなど、先生方の悩みは尽きないことと拝察いたします。

一方で、少子高齢社会、食育の推進、消費者教育の充実、生活文化の理解・継承等、社会の変化に対応する課題は山積しており、今後、家庭科の指導においては、ライフスタイルの変容に対応しながら安全・安心な生活を作り出す「社会の変化に対応する力の育成」が一層重要になってきます。

こうした中、家庭科には、生徒が学習したことを実生活に生かす実践力の育成が求められています。単に「このことを知っている」ではなく、学んだことを活用して「これができる」となることが大切なのです。

これらのことを踏まえ、次の3点を心に留めていただきたいと思います。

1点目は、生徒の実態を踏まえた指導計画と評価計画の作成です。授業の目標が明確にあり、その目標が達成された状況についての評価計画があって、授業が意図的・計画的に進められることが必要です。

2点目は、目標に沿った教材研究です。はじめに教材ありきではなく、その教材を通して何を身に付けさせるかが大切です。目標をはつき

りさせることで教材は精選されてきます。

3点目は、生徒が学ぶ楽しさを感じ取れる授業をつくるための引き出しをたくさん持つということです。より専門的な知識と技術の習得、学習スタイルの工夫、言語活動の充実、生徒が能動的に活動する学習の工夫等、多岐にわたります。特に、課題の発見と解決に向けて生徒が主体的・協働的に学ぶ、いわゆる「アクティブ・ラーニング」については、家庭科はこれまでも取り組んできたところですが、より成熟したものにしていかなければなりません。

さて、国立情報学研究所において人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」という研究が進められており、2021年の東大入試突破を目指しているとのことです。本プロジェクトの目的には触れませんが、これまでは人にしかできないと考えられていた、情報を駆使して判断し、応用してこなす力についてもロボットで代替できる時代になると言われています。

こうした中で、今、私達に求められていることは、「人間でなければできないことは何か」を見通し、その力を高めることではないでしょうか。生活の中の問題を感じ取る力、そこから新たな価値を見付け、考え、問題の解決につなげていく力を育てることが重要です。

先生方におかれましては、これまでも本道の家庭科教育の発展に御尽力いただいていることに心より感謝申し上げますとともに、今後とも、御協力をお願いいたします。

最後に、部会長である江別高等学校の小松芳幸校長先生をはじめ関係各位に、深く御礼を申し上げます、御挨拶といたします。

I 平成26年度家庭部会の報告

財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会 全国高等学校長協会 家庭部会 報告

北海道高等学校長協会家庭部会長

(北海道江別高等学校長) 小 松 芳 幸

I 財団法人全国高等学校家庭科教育振興会

●理事会

平成26年5月19日(月) 13:00~14:00

ホテルメトロポリタンエドモンド

出席者 財団理事 小松 芳幸(江別)

評議員 杉本 祐子(当別)

1 報 告

○平成25年度家庭科技術検定受検状況

①被服製作 53,743人

②食物調理 109,635人

計163,378人

前年比 -8,748人

③保 育 106,388人

前年比 +5,241人

2 議 事

(1) 平成25年度事業報告

主な事業～家庭科技術検定の実施、

家庭科実践研究会(北海道大会)

(2) 平成25年度収支決算書

▽経常収益

188,468,053円

主な収入～検定事業

159,506,000円

出版事業

22,441,030円

▽経常費用

179,897,120円

(残) 8,570,933円

(3) 平成26年度事業計画

主な事業～家庭科技術検定の実施

(4) 財団正味財産(平成26年3月31日)

312,989,219円

(5) 理事、評議員の選出

理事長 深谷 敬子

(埼玉県立鴻巣女子高等学校長)

北海道代表理事 小松 芳幸(江別)

評議員 杉本 祐子(当別)

II 全国高等学校長協会家庭部会

●常務理事会

平成26年5月19日(月) 14:10~14:40

ホテルメトロポリタンエドモンド

出席者 全国常務理事 小松 芳幸(江別)

杉本 祐子(当別)

1 報 告

(1) 第112回秋季研究協議会(新潟大会)

(2) 第58回家庭科実践研究会(栃木大会)

(3) 保育研究大会(岐阜大会)

(4) 第62回家庭クラブ研究発表大会

(山口大会)

2 協議事項

(1) 全国理事会・研究協議会の運営

(2) 総会・研究協議会の運営

(3) 秋季研究協議会地区別提案校について

(4) 調査研究委員会委員について

●理事会

平成26年5月19日(月) 14:50~17:20

ホテルメトロポリタンエドモンド

出席者 全国常務理事 小松 芳幸(江別)

杉本 祐子(当別)

1 報告・連絡事項

- (1) 家庭部会常務理事会報告
- (2) 公益財団法人理事会・評議員会報告

2 協議事項

- (1) 平成25年度家庭部会事業報告
- (2) 平成25年度会計決算報告
 - ▽総収入額 14,561,898円
 - 主な収入～会費 11,412,000円
 - 6,000×1,902校(北海道21校)
- (3) 平成25年度退任校長表彰(52名)
 - 北海道関係 加藤 和美校長(江別)
 - 本庄 幸賢校長(当別)
- (4) 平成26年度家庭部会役員・財団役員
 - 家庭部会・財団理事長
 - 深谷敬子(埼玉県立鴻巣女子高校長)
 - 北海道地区常務理事
 - 小松 芳幸(江別)
 - 杉本 祐子(当別)
- (5) 平成26年度家庭部会事業計画
- (6) 平成26年度家庭部会会計予算

▽総収入額 13,625,753円
主な収入～会費 11,400,000円
6,000×1,900校(北海道19校)
主な支出～事業費
研究協議会負担金 1,200,000円
地区別校長会 900,000円

3 研究協議

家庭科教育に関する諸課題

4 その他

●総会・研究協議会

平成26年5月20日(火) 10:00～16:20

ホテルメトロポリタンエドモンド

出席者 全国常務理事 小松 芳幸(江別)
杉本 祐子(当別)

1 開会式

- (1) 新理事長挨拶 深谷 敬子
- (2) 前理事長挨拶 山形 昭夫

(3) 来賓祝辞

文科省初中局主任視学官 望月 禎 氏
産振中央会専務理事 富岡 逸郎 氏

(4) 退任校長表彰 挨拶

2 講演

「食育を通して育む『生きる力』」

(株)ワイス弁当の日 取締役 竹下 和男 氏

3 研究協議

- (1) 「家庭に関する学科における地域産業を担う人材育成」
 - 東京都立忍岡高校長 浦部万里子
- (2) 「共通教科『家庭』で育む『生きる力』」
 - 東京都立江北高校長 竹原 勝博
- (3) 「公益財団法人認定に伴う家庭科技術検定の運営」

岐阜県立大垣桜高校長 高賀 敦子

- (4) 「家庭学科卒業者の進路状況調査」
 - 千葉県立佐倉東高校長 田中 正之

4 講話

文科省初中局教科調査官 望月 昌代 氏

- (1) 知識と技術の定着を図る授業づくり
 - ①指導の工夫～□思考力、判断力、表現力の育成 □生徒の主体的な学習を支援 □実践的、体験的な活動の工夫
 - ②評価の工夫～□指導計画と効率的な評価計画の作成 □指導と評価の一体化
- (2) 高等学校家庭科における指導のポイント
 - ①衣食住の指導内容を工夫する
 - ②中学校とのつながりを考慮
 - ③時間軸を意識した指導の工夫
- (3) 言語活動の充実－実施上の課題
- (4) 生徒を伸ばす指導方法
- (5) 家庭科で身に付く力
- (6) 評価における課題
- (7) 専門学科の活性化
- (8) 家庭科の活性化に向けて
 - ①学習の可視化 ②外部への発信

第63回北海道高等学校家庭教育研究協議会を終えて

北海道高等学校家庭科教育研究協議会会長

(北海道洞爺高等学校長) 佐々木 淑 子

平成26年度第63回北海道高等学校家庭科教育研究協議会が、7月29日(火)～30日(水)の2日間、主会場を北海道立道民活動センター「かでの2・7」において開催されました。

ご来賓として、全国高等学校長協会家庭部会副理事長(栃木県立宇都宮中央女子高等学校長)橋川睦子様、北海道教育庁学校教育局高校教育課長 小山茂樹様をお迎えし、ご挨拶をいただきました。また、助言・講評については、北海道教育庁十勝教育局教育支援課高等学校教育指導班 指導主事佐紺摂子様をお願いしました。

参加者は93名(うち資料参加5名)と例年より若干少なめでしたが、関係各位のおかげをもちまして盛会のうちに初期の目的を達成することができました。心から感謝申し上げます。

さて、63回目を迎えるに当たり、本会の組織の元になっている北海道高等学校長協会家庭部会企画委員の校長先生方6名と、全道各地より選出された運営研究員23名の先生方及び家庭科の教頭先生3名、そして事務局の本校2名、計34名が企画・運營業務を担当しました。

この運営研究員が組織する運営研究協議会となって7年目となりました。運営研究員については、各地区の研究会等が協議母体となり自主的に選出を行う地区も増え、組織作りがスムーズになっています。これは、多くの家庭科(福祉)の教員が運営に携われる体制ができつつあることを示す状況であり、本会が目指す主体的運営の姿に近づいてきました。

【本研究協議会 組織】は、P 6 に記載

さて、今年度の研究主題は、「生きる力をはぐくむ家庭科教育の充実を目指して」であり、

この主題を実現するため、具体的研究の観点を五つ設定し研究協議が行われました。

日程の一日目午前中は開会式・オリエンテーション・生徒による意見、体験発表・研究(提言)発表を、午後からは三つの分科会と校長部会に分かれて研究協議を行ないました。

続く二日目は、グループ別体験研修です。昨年度の講座を一部入れ替え、「食育」「家庭経済」「保育」を新設した6セミナーを設定し実施しました。参加者が希望した通りの講座の研修を受講することができました。

さて、オリエンテーションでは、昨年度「全国高等学校家庭科実践研究会」と兼ねた研究協議会であったため、その報告と今年度の研究協議内容の確認を行いました。さらに、次年度は全国高等学校家庭クラブ研究発表大会～北海道大会への予告もさせていただきました。

【大会要項・ポスター】は、最終ページに記載
オリエンテーションに続く全体会では、昨年度の道校長協会家庭部会主催の「意見・発表大会」において最優秀であった札幌手稲高校3年山田千裕さんによる発表がありました。堂々とした発表に盛大な拍手が贈られました。

次に北海道家庭科技術検定の実施について、事務局校である当別高校 今多靖子先生より説明があり受験状況などが示されました。

続く研究(提言)発表については、オホーツク・空知・宗谷の3地区からの提言となりました。滝上高校 山本史江先生、滝川西高校 福岡あゆみ先生、稚内高校 川端暖加先生には、自校の生徒の実態を的確に捉え、授業・課外活動等における日常の実践を提言としてまとめら

れ、わかりやすく発表していただきました。

【提言内容】は、P9～P11 に記載

午後からはこれらの提言内容を基に三つの分科会に分かれ活発な研究協議を行い、有意義な時間となったようです。

校長部会においては、全国高等学校長協会家庭部会北海道ブロック研究協議会を兼ねていることから、全国高校長協会家庭部会副理事長橋川睦子校長先生に「全国の状況等について」説明いただきました。また、「全国高校長協会家庭部会総会・研究協議会等について」、本家庭部会長（江別高校）小松芳幸校長先生から報告がありました。さらに、「全国高校長協会家庭部会第112回秋季研究協議会（新潟大会）」において発表する（三笠高校）高瀬雅朗校長先生から事前発表が行われました。

分科会終了後は、再び参加者が集まり、各分科会の報告及び講評が行われました。各分科会では、今後の指導に生かせる協議内容であったことが報告されました。また、佐紺指導主事の講評では、提言内容について指導・評価をいただくとともに、評価と指導の一体化についてご指導をいただきました。

【分科会報告】は、P12～P14 に記載

【講評】は、P15～P16 に記載

二日目は9:00から12:00まで、各会場にてグループ別体験研修が行われました。どの講座においても先生方の真剣な取組が見られ、成果多き体験研修であったことが伺えました。実施後のアンケートにおいても高い評価が得られたところです。【グループ別体験研修報告】は、P17～P19 に記載

こうして終了した本研究協議会が、本道の家庭科の先生方の資質の向上に繋がり、進化し続ける歩みのステップとなることを祈念するとともに、課題を解決しながら一層有意義な研究協議会にするよう努めていきたいと思います。

【本研究協議会 組織】

1 役員

部会長	小 松 芳 幸 (江 別)
会 長	佐々木 淑 子 (洞 爺)
副会長	杉 本 祐 子 (当 別) 増 田 雅 彦 (名寄産業)
監 事	福 本 直 人 (札幌南陵) 高 瀬 雅 朗 (三 笠)

2 運営研究員

石 狩	溝 淵 和 江 (札幌南)
	伊 藤 友 美 (札幌西)
	東 昌 江 (札幌手稲)
	高 橋 理 緒 (札幌南陵)
	丸 岡 ひとみ (札幌旭丘)
	池 田 麻 子 (野 幌)
	谷 田 幸 恵 (恵庭南)
	鈴木 朋 美 (江 別)
道 南	今 多 靖 子 (当 別)
	石 川 佳寿美 (函館中部)
後 志	金 沢 久 子 (函館工業)
	角 井 愛 美 (小樽商業)
空 知	近 藤 麻理子 (倶知安)
	菊 池 美 穂 (月 形)
上 川	白 根 美由紀 (深川東)
	菊 入 あゆみ (旭川龍谷)
留 萌	山 本 昌 枝 (名寄産業)
	蒔 田 直 子 (留 萌)
宗 谷	佐 藤 綾 (豊 富)
オホーツク	前 田 恵 子 (北見北斗)
日 胆	大 森 祐 介 (静 内)
十 勝	品 田 ひろみ (音 更)
釧 根	芝 田 愛 佳 (中 標 津)
教 頭	岩瀬張 幸 子 (江 別)
	井 上 明 子 (倶知安)
	宮 崎 円 (置 戸)

3 事務局

事務局校（北海道洞爺高等学校）	
事務局長（教頭）	岩 瀬 均
事務局員（教諭）	秋 田 貴 子

オリエンテーション

北海道洞爺高等学校長 佐々木 淑 子

全道よりお集まりいただきありがとうございます。異常気象が続いていますが、2、3日前には高校生が友人を殺害する事件が起き、何か様々な面で異変が起きている感があります。

さて、平成26年度の今年、北海道高等学校家庭科研究協議会は63回目を数えるとともに男女必修が始まってから20年の節目の年となりました。それでは、資料に基づきお話しします。

昨年度は「全国高等学校家庭科実践研究会」と兼ねて開催し、多くの方々にご支援、ご協力いただきました。改めて感謝申し上げます。おかげさまで、全国から167名の参加をいただき研修を深めることができました。この報告については各加盟校へ配布済みの紫色の「こです」に詳細が載っていますのでご覧下さい。

今年度の本研究協議会の内容について説明します。まず、研究・研修会においては必ず目的・目標をもって参加されていることと思います。本研究協議会の目的は「家庭科教育に関する諸問題を研究し、会員の資質向上と北海道高等学校家庭科教育の振興を図る」です。これに伴った研究主題は「生きる力をはぐくむ家庭科教育の充実を目指して」とあります。そして、5つの研究の観点については、いわば視点とも考えられます。文中にある「改善」という言葉に注目していただき、本研究協議会の内容がどれに当たるか考えながらご参加ください。

■本日午前中の全体会では、最初に札幌手稲高校の山田千裕さんの発表があります。これは、昨年度の校長協会家庭部会主催の意見・体験発表大会で最優秀となった発表です。今年の同大

会は8月22日に江別高校で開催されます。さてこの観点は何かというと5番目の「問題解決能力の育成を目指すホームプロジェクトの実践と学校家庭クラブ活動の指導と評価の充実」にあたります。3番目の「思考力・判断力・表現力の育成を目指す学習指導と評価の工夫と改善」に繋がるのは発表そのものです。

■家庭科技術検定の説明については資料として10年分の推移を載せましたが、受検者数が減少する傾向にあります。生徒の学び、技術の習得を考えると利用しない手はありません。家庭科技術検定北海道事務局校は当別高校、担当は今多先生ですから是非お問い合わせ下さい。

■研究（提言）発表では、一つ目はオホーツク地区から滝上高等学校山本史江先生による「成長期の体と心を育む食生活について～自らの課題を見出し健康的な大人を目指すための取組～」です。観点は、(3) 思考力・判断力・表現力の育成を目指す学習指導と評価の工夫と改善です。二つ目は、空知地区から滝川西高等学校福間あゆみ先生による「フードデザインの授業における地域との連携授業について」です。観点は、(4) 家庭・地域と連携した実践的・体験的な学習活動の指導と評価の工夫と改善です。三つ目は、宗谷地区から稚内高等学校 川端暖加先生による「これまでとこれからの家庭科教育～本校での実践を中心にして～」です。観点は、(2) 基礎的・基本的な知識や技術の習得を目指す学習指導と評価の工夫と改善です。これらの発表については、各学校の状況、生徒の実態等は異なりますが、家庭科の指導内容は学習指導要領で示され共通ですから授業の工夫・改善のヒントを見つけながらお聴きください。

■本日午後からは発表者の研究・提言に基づいた3つの分科会があります。ぜひフロアの先生方も自校の取組や生徒の活動など主体的に情報発信し、活発な分科会を創造してください。

なお、次年度の発表担当地区は、今年度の分科会司会担当地区の「道南・後志・上川」です。提言発表者の決定等、各地区での調整をよろしくお願いします。

■2日目はグループ別体験研修です。本研究協議会が運営研究委員を中心として開催する7年目となり、このグループ別体験研修も一巡しました。そこで今年は「食育」「家庭経済」「保育」を新設し6セミナーを設定しました。各セミナーごとに運営研究員が対応しますが参加の先生方のご協力をお願いします。

本研究協議会の昨年度の実施報告と今年度の計画（予算案等）については、資料の通りで、家庭部会総会で承認していただきました。

また、本研究協議会規約についても別紙の通りですのでご確認願います。

今後の家庭科関連の行事については、別紙の通りです。10月4日には、3年に一度開催の北海道産業教育フェア、通称「さんフェア」が札幌駅地下歩行空間にて開催され、家庭に関する学科設置校中心に展示・演示・販売等を計画しています。ぜひご覧ください。さらに、来年度のこの時期（平成27年7月30～31日）には第63回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会（北海道大会）が札幌市教育文化会館で行われます。平成14年に50周年記念大会として約1,100名の参加者を迎えて以来の全国大会開催となります。当別高校が事務局として運営準備を進めていますが、家庭クラブ連盟に加入していない学校であっても家庭科の先生方のご協力をお願いするかも知れません。その際は快くお引き受けくださいますようお願いいたします。なお、今年の

同大会が山口県で開催されており、現在数名の家庭科教員が視察に行っています。

北海道における家庭科教育に関する状況について、校長協会家庭部会調査研究委員会でとりまとめた結果を「こです」にも掲載しましたのでご覧下さい。概要として、この十年間で家庭に関する学科設置校が13校16学科から8校10学科へと減少しています。また、共通科目「家庭基礎」の履修が増加傾向にある分、「家庭総合」が減少傾向となっています。学校数・単位数が減少することは、家庭科の先生方の職場数も必要人数も減るということです。こういう今だからこそ、家庭科の先生方がどんな心意気で家庭科を指導し続け、生徒たちにどんな力を付けているのかが問われているのです。最後に・・・

一つ目は「かきくけこの教師」を目指して欲しいということです。「か」考える・語る教師、「き」気配り記録を大切にする教師、「く」工夫し具体的に実践する教師、「け」健康で研究熱心な教師、「こ」言葉を大切にしながら行動できる教師です。言語活動の充実が求められている現代、教師自身も言葉や伝える力を身に付けなければならない時なのです。

二つ目は、国を挙げて女性管理職を増やす取組が推進されていることについてです。実は北海道は全国公立高校で3番目に女性校長が誕生した歴史があります。（1969年3人同時に誕生）それから45年が経過しました。今年、家庭科校長は私一人となりました。出産育児・教育・介護を担う機会が多い家庭状況もあるでしょうが、是非挑戦して下さるようお願いいたします。

家庭科教員が力量を発揮し、生徒たちに生活の知恵や技を基本とする生き抜く力を身に付ける家庭科を構築して下さることに期待して、オリエンテーションとします。

提言1 成長期の体と心を育む食生活について

～自らの課題を見出し健康的な大人を目指す取り組み～

北海道滝上高等学校教諭 山本史江

1 はじめに

現代の食生活の問題点は、毎日何かしら食べているが、その内容については課題意識が薄いことである。本校生徒もまさにその状況であることが家庭科の座学や調理実習、日々のかかわり、また、町の小中高の養護教諭委員会が実施した「生活に関するアンケート」の結果からもわかり、養護教諭、町の保健師と連携し、食生活に関する授業実践に取り組んだ。

2 授業のねらい

健康な大人になるためには、成長期にある高校生の今こそ、食生活を改善しなくてはならない。生徒自身が自分の健康状態を知ることから授業を始めることにした。体温、血圧、血糖値、骨密度などの数値測定と自分自身の食生活の振り返り健康状態を把握したうえで、実際に1か月間の短期目標を設定させ、目標を意識した生活をしてみることで、その変化も捉えさせることとした。血圧を測定し、保健師さんの協力のもと血糖値骨密度の測定も実施した。血糖値測定には血液採取も必要ため、保護者への協力と了承依頼文を配布した。また、授業は保健師さんに実践していただき、専門的な立場から教えていただくことで、生徒により深く伝わることもねらいとした。

3 授業実践

自分の健康状態と不規則な生活を把握できていない生徒や、高校に入学してから運動をしなくなった生徒が多いことから、はじめに数値測定を行った。測定結果から、キレやすく、肥満の生徒

の血糖値が非常に高いなど普段の学校生活での問題行動と関連していることや、朝食を抜いている、ジュースを常飲している、牛乳を全く飲んでいないなどの生活習慣や環境を知るきっかけともなった。

その後、骨粗鬆症や糖尿病について写真やデータをもとに説明し、生徒がよく摂取している清涼飲料水や菓子類に含まれている油や砂糖の量を考えるためプリントを使った学習を行い、1か月の短期目標を設定させまとめさせた。そして、1か月後にふり返りと生活習慣病について学習させ、前回の授業で生徒に不足していると感じたカルシウムや食物繊維などの栄養素について詳しく説明した。次に、6か月間の長期目標を設定し、校内の廊下に掲示をした。

4 授業及び評価の工夫と改善

年度末の取組だったため、生徒にふり返りやまとめをさせる時間が取れなかったが、今後は発表の場を設けたり、相互評価や自己評価を行ったり、短期目標設定後に食生活の記録を取るなどの工夫をしていきたい。

5 おわりに

今回の授業では町の保健師さんの協力のもと、骨密度や血糖値を測定して自分自身の健康状態を把握できたことが生徒の意識改善に効果的だったと思う。そして、自らの課題を自分の力で考え、食生活の判断をし、それを目標として取り組むことができたと思う。すべての面で協力をしてくださった本校養護教諭と町の保健師さんに感謝をしたい。



提言2 フードデザイン授業における地域との連携について

北海道滝川西高等学校教諭 福間 あゆみ

1 はじめに

本校に赴任し、「受け持つ生徒の多さ」、「選択科目が複雑→教室や設備を十分に活用できない」「市立高校」等からどのような授業を展開していけばよいか戸惑いがあった。また、授業では「自分らしい人生を切り拓いていくための土台づくり」として実践したいと考えており、「生徒一人ひとりを大事にする授業」、「地域と連携することにより、生徒が自分の生活を見直していける授業」を目指し実践してきた。これらの中から、特に市立高校という特性を生かせる「地域と連携した授業」について取り組んできたことを報告する。

2 実践内容

(1) 実践のねらい

「フードデザイン」は、調理実習を通して知識や技能を高めることも重要であるが、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てることも目標として挙げられていることから、食材を知ることも大切なことと考え、地域の方々との関わりを「フードデザイン」に取り入れて実践した。

(2) 授業内容

H22年度	校外授業～地域を知る～ JA たきかわ・りんご農家・米粉
H23年度	滝川おもしろ食育塾と共同授業 枝豆
H24年度	滝川おもしろ食育塾と共同授業 カラーポテト・さつまいも・カボチャ
H25年度	滝川おもしろ食育塾と共同授業 いも・さつまいも・大豆・蕎麦・かぼちゃ・スイートコーン

(3) 地域の方々と授業を行ってみて

- ・10代の子どもは発達段階に関わらず同じ反応。
- ・実際に食べているものをいかに知らないかということがわかった。
- ・昔からあるお菓子や郷土料理の良さを実感。
- ・体験したことにより、机上での学習に実体験が合致し、より教育効果が上がった。

(4) 評価について

評価規準を基に、授業における生徒との対話、ノート、ワークシート、ペーパーテストなど、生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していくことが求められている。本校英語科で実践されている CAN -DO リストを活用するなど、より効果的・効率的な学習評価を取り入れていく必要がある。

3 おわりに

実践を通して、生徒は地域に対する愛着が湧き、さらに生産者の方に実際にお話を伺うことで、当たり前にある食材でも手間暇かけて作られていることを実感したようである。「なくてはならない農業をもっと知ってもらうためには食を考え、知ることが大切」、「生徒たちが自ら考え地域のために活動をする場所を作ってあげることが大切」というお話をいただき、食生活を考える時には地域のことを知り、地域の方々から学ぶことの重要性を改めて考えさせられた。

また、食育活動を取り入れた授業がますます重要になってきている。どういう形で食育活動を家庭科に取り入れていくか今後も考えていきたい。

提言3 これまでとこれからの家庭科教育

～本校での実践を中心にして～

北海道稚内高等学校教諭 川 端 暖 加

1 はじめに

本校は、多学科集合型の学校であり、全日制（普通科、看護科、商業科）・定時制・通信教育と学ぶ内容の違う多種多様な生徒がいる。自然に恵まれた豊かな気候風土の中で、衣食住だけでなく、とりわけ保育や福祉、環境・消費生活の分野において、地域の特色を生かした授業実践を心がけてきた。基礎的・基本的な知識や技能を定着させ、実生活に生かせるようにするための取組として、体験的学習に着目し行った授業実践について報告する。

2 実践内容

（1）授業設定のねらい

道内地方都市では、若者が都市部へ流れるため、高齢化・核家族化の傾向がある。幼児や高齢者と関わる経験がない生徒も多い。そこで、机上で学ぶ知識に加え、実際にふれ合い交流するような体験的学習活動を行うことで、家族・家庭に関心を持ち、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図ることをねらいとした。

（2）授業内容

①保育実習

事前に子どもの発達の様子や生活、遊び、子育ての意義等について学習する。本時は2時間かけて保育所を訪問し、2～5歳児と保育士主導の全体レクリエーション、その後個別に室内外で交流を行った。事後学習では、観察してきた子どもの様子・施設設備・保育士が子どもと関わる姿についてレポートにまとめさせた。

②高齢者施設訪問

事前に高齢者の心身の変化や生活について学習させた。それを踏まえた上で、高齢者にとってためになる、また高校生と共に楽しめる内容のレクリエーションを考えさせた。本時は3時間かけて老人保健施設を訪問し、施設の方からの講義、レクリエーションの実施と自由に交流する時間を設けた。事後学習については保育同様に行った。

（3）成果と課題

生徒の様子や感想からは、事前に学習した内容を踏まえて、園児や高齢者の様子、保育士や介護士の接し方をよく観察し、生徒それぞれの視点でまとめられたことがわかる。また、触れ合い交流を通して、子どもや高齢者に対する安全・衛生的な配慮や気遣いができていたことや、身近な家庭生活への関心の高まりが見られた。

今後は、身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を実生活に生かすことができるような指導と評価の工夫が課題となる。評価においては、思考し判断し表現するような考查問題の作成等に取り組んでいきたい。また、他分野においても体験的な学習活動を少ない単位数の中に効果的に取り入れる方法の工夫も課題としたい。

3 おわりに

今回このような実践発表の機会をいただき、生徒の学ぶ姿や身に付けた知識・技能、生徒の想いなど、改めて詳細に把握することができた。ご指導・ご助言に心から感謝する。これからもさらに精進していきたい。

第 1 分 科 会 報 告

北海道中標津高等学校教諭 芝 田 愛 佳

■提言に対する質疑応答

(質問)血糖値や骨密度の測定を受けたくない生徒や、受けさせたくないという保護者はいたか。(回答)承諾書配布後、保護者から受けさせたくない等の申し出は一切なかった。骨密度の測定は拒否した生徒は1名のみ。

(質問)血糖値と骨密度を選んだ理由は何か。

(回答)学校給食で牛乳嫌いの生徒が多く、牛乳を飲まない生徒が多いため、牛乳が廃止となった。また、部活動加入者が少なく運動しない生徒が多い等の理由で骨密度を選んだ。さらに日常的にジュースを飲む機会が多いため血糖値を選んだ。

■研究協議

【柱1】自らの課題を見出し、効果的な調べ学習の取組について」

食生活分野では、献立作成やPFCバランスの計算の他に、調理実習の献立において足りない食品を考えさせる。自分の食べたものを絵に描かせたり、寄宿舎での食事をデジカメで撮影したりと視覚に訴える実践が多く紹介。また、新聞を使った取組として、新聞記事を読み長期休業中にレポートを作成する、新聞の中から興味・関心のあることを見つけ、「生活レベルアップ新聞」を作成し、発表・相互評価する。さらに、その新聞を廊下に掲示し、先生や保護者からのメッセージをもらう。などの実践が紹介。その他にも、調べ学習の実施時期や方法など様々な意見交換を行った。

【柱2】「生徒の実態に合わせた地域・校内連携の取組について」

校内連携の事例として、毎月9のつく日を休甘

日として、甘い物を控える日とする。分掌や他教科と連携し、生徒によるレシピやメニュー開発をする。地域との連携では、栄養士による朝食の講話、保健師の協力による赤ちゃん抱っこ体験、保育園や児童館、福祉施設への訪問などが紹介。

■助言者からのまとめ

○北海道千歳北陽高等学校 古御堂敦子先生
家庭科で採血することに大変驚いたが、インパクトがないと生徒は食いついてこないのかもしれない。測定したことを教材にする珍しい実践であったが、身体そのものが優れた教材であるということを改めて知った。この実践は、学校・家庭・地域の連携があったからこそ内容であった。承諾書や測定結果を持ち帰ることで家庭へのアプローチができ、地域、学校、家庭との連携ができたこそその実践であった。

○北海道江別高等学校 岩瀬張 幸子教頭

調べ学習は、他教科や総合的な学習の時間、家庭科選択科目等と横断させて取り組むと時間確保に効果的である。また、調べ学習は生徒個々に応じた対応を行うことが大切である。

校内連携については、教職員間のコミュニケーションを大切にし、自分自身が積極的にネットワーク作りを行うことが必要である。また、地域連携については、校外で実習する場合など、地域の行政機関に相談するとアドバイスがもらえることが多い。先生方自身が地域住民の一人として地域の行事に参加するなど、地域の方々とのコミュニケーションを図ることで、一層地域と連携した教育活動が可能になる。

第 2 分 科 会 報 告

北海道月形高等学校教諭 菊 池 美 穂

■提言に関する課題について（提言者から）

地域での様々な体験の中で変化成長していく生徒の姿を見て、教員側もそれだけで満足してしまっていた。これからは、生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを考えて計画を立て、どのように評価していくのが課題である。

■研究協議

【協議の柱】「地域との連携における成果と課題、評価方法と連携のねらいについて」

- ・特産品である米を題材にした調理実習を行い、講師は地元の調理師さん等をお願いした。レポートと発表で評価しており、人前で話す力を身につけさせたいと考えている。その他、先生たちに試食してもらい、その評価も加味している。生徒自身の体験が、将来にどう繋がるかを重視している。
- ・年4回、水の駅でカフェを計画・運営している。カフェには、独居高齢者や保育園児などを招いている。生徒には様々な経験を通してコミュニケーション能力を付けさせたい。評価はレポートと取組状況の観察を主として行っている。
- ・中学生に福祉の出前授業を行っている。事前・事後のレポートから生徒の変化を見て評価し、单元ごとに「振り返り目標」を立てさせ、実生活にどう活かすかも評価に取り入れている。
- ・特産品のそばを活用し、老人ホームでそば打ち教室を行っている。また、中学生と一緒に給食メニューを考え、給食の献立に取り入れている。成果は、生徒の中に日頃食べている食品や町に対する愛着が湧いたこと。地域に出て活動することが、大きな教育的効果を生んでいる。
- ・町教委や農協等と連携し、食育推進活動を行っている。保・小・中で食育プレゼンテーションを

行い、2,500字以内のレポートにまとめさせている。点数表を生徒に配布し、2,500字書ければ10点、問題解決的な表現があれば30～40点・・・などと、基準を明確にしている。

- ・レポートに細かく質問項目を設けると、文章表現が苦手な生徒でも書くことができる。また、数ヶ月前に生徒が書いたレポートを改めて見せて、自分自身の変化を実感させている。

■助言者から

○北海道白石高等学校 北村 仁美先生

物事を最後までやり遂げる力や礼儀・挨拶などは、地域で活動することでさらに身に付く。評価に関しては、計画の始め・中間・終わりに自己評価をさせると生徒の変容がよく分かる。提言者の福間先生が「生活の土台作り」を考えて授業をすると言ったが、生涯にわたって生活を工夫し続ける力を生徒に身に付けさせてほしい。

○北海道置戸高等学校 宮崎 円教頭

私たちは、食品の安全性への関心は高いが、自分が食べている物を誰が作り、それがどこからやってくるのかという点の関心が低い。福間先生は授業を地域の中で大きく展開しており、生徒が地域を知り、愛着を持つことに留まらず、その活動が人間性を磨くことにも繋がっている。資料にある「CAN-DO リスト」は、評価の基準を明確かつ具体的に表したものである。これらを事前に提示することで、生徒の学習意欲の喚起にも繋がる。

平成25年度の

「高等学校教育課程編成・実施の手引」に評価基準が具体的に書かれて

いるので、ぜひ活用していただきたい。



第 3 分 科 会 報 告

北海道小樽商業高等学校教諭 角 井 愛 美

■提言に関する課題について（提言者から）

今回の提言は、普通科の生徒を対象とした体験的な学習という内容であったが、稚内高校は普通科の他に看護科、商業科がある。普通科だけでなく、他学科または家庭基礎・総合においても、いかにして効果的に体験的な学習活動を取り入れるべきかという点が課題である。

■提言を受けての研究協議

川端先生の提言を受けて、参加者を3つのグループに分け、2つの柱をもとに情報交換を行った。

【柱1】「体験的な学習活動を効果的に取り入れる方法」

- ・外部講師の講演、中学生への体験入学で食物検定4級の先生役を生徒に体験させる。
- ・実施上重要なのは、目標の明確化である。
- ・身近な調理実習や被服実習、保育実習を充実させ、体験的に学ばせることも大切である。
- ・失敗しないようにというだけでなく、失敗から何かを学ばせるというのも学習である。
- ・羅臼高校では、昨年度『高校生チャレンジグルメコンテスト』に出場。食育や地産地消のメニュー開発を町教委や地元企業の協力のもと、一年間取り組んだ結果、最優秀賞を受賞。本年度からは、学校家庭クラブを主体に2年次の家庭基礎とフードデザインでメニューや活動を残していくための取組をしている。

【柱2】「体験的な学習活動における評価方法」

- ・川端先生の評価方法は、観点別評価において非常に有用である。個々の生徒を評価するため4段階形式の自己評価も有用ではないか。
- ・家庭科技術検定は、そのための知識や技術を学ぶことから、何をもって評価するのかなど、はっきりとわかりやすく、有用である。

- ・調理実習における評価方法について、事前事後を含め評価の観点全てを取り込めるように、評価の機会を多く持つと良いのでは。

■助言者からのまとめ

○北海道美唄尚栄高等学校 坂口 真奈美先生

3年目とは思えないしっかりした内容の提言。

「私達は家庭科の教員である」ということを第一に考えていくことが大切である。体験学習は家庭科の醍醐味である。目標とそれに至るまでの基礎的な基本的な知識の裏付け、復習があってこそその体験学習であり、イベントで終わらせてはいけない。受け入れ側との連携も重要である。体験学習は、校内でやれることから取り組むことも大切で、家庭科技術検定も活用すべき。家庭生活は「生きる」ことであり、家庭科教員は確かな専門性と豊かな人間性を持ち時事の流れに従い、問題に能動的に楽しんでトライすることで、生徒に還元される。家庭クラブは授業の枠を超えて生徒と教員の興味関心で家庭科の創造性と表現力を発揮することができる。家庭科は高校生が生きる力を増やす「宝」であることを改めて思い出させてもらった。

○北海道俱知安高等学校 井上 明子教頭

体験的な学習の評価は、目標の明確化が重要である。そのためには、観点別の学習の評価をきちんと作成し実行していく必要がある。観点別評価における「規準」は数値化するものというよりは、様々な面を総合的に判断するものである。生徒の基礎基本の確実な習得のためには、一単位時間における目標と評価を明確にし、生徒にも伝えることが重要である。川端先生の発表においては、事前事後の計画・反省がきちんとなされ、体験的な学習がただのイベントで終わらせない工夫がされていた。

平成26年度第63回北海道高等学校 家庭科教育研究協議会講評

北海道教育庁十勝教育局教育支援課高等学校教育指導班 指導主事 佐 紺 撰 子

平成26年度第63回北海道高等学校家庭科教育研究協議会が全国高等学校長協会家庭部会副理事長橘川校長先生をお迎えし、盛大に開催されましたことをお喜び申し上げます。お集まりの皆様には、日頃から本道の家庭科教育の充実発展のために御尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

まず、全体会Ⅰについてですが、家庭部会意見・体験発表大会で最優秀となった札幌手稲高校 山田千裕さんの発表は、まさしく問題解決能力の育成を目指す学校家庭クラブ活動の成果を示すものとして大変素晴らしいものでした。また、当別高校 今多先生からは家庭科技術検定のお話がありましたが、生徒に実技の力を身に付けさせるためにも、家庭科技術検定を積極的に活用していただくとともに、被服・食物だけではなく保育技術検定につきましても活用のご検討をお願いいたします。

次に、各ご提言についての講評に先立ちまして、今月文部科学省で開催されました教育課程に関する連絡協議会での家庭科に係る内容についてご説明いたします。

1点目は家庭科指導上の課題についてです。ひとつは生徒の学習の理解を一層深めるためのICTの効果的な活用です。加えて、授業力の一層の向上のための技術検定の活用、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の充実、地域の資源や人材を活用し地域と連携した活動の充実、言語活動の充実といったことがあげられます。特に、学校家庭クラブ活動については、家庭科で生徒が何を学び、どのように変容しているのかが可視化される場面であり、家庭科を内外にアピールする大切な機会となることを考えていただきたいと思います。

私たちは家庭科のプロであります。例えば、学校家庭クラブ活動の充実などについて、それができない理由をあげるのではなく、何ができるかを考え、失敗を恐れず、だけれども無理は

しないで、本研究協議会などで得たネットワークを大切にして家庭科が一丸となって生徒のためにがんばっていきましょう。来年7月には、全国高等学校家庭クラブ研究発表大会北海道大会が札幌で開催されますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2点目は、調理実習等における事故防止についてです。これまでも食中毒の防止、実習室の管理や器具の整備について十分な注意を払っていただいているところですが、調味料等の管理におきまして容器を入れ替えてしまったことから油と洗剤を間違える事故が発生しております。各学校で、今一度見直しをお願いします。

3点目は専門教科「家庭」改訂のキーワードの確認についてです。「高い倫理観と人間性」、「コミュニケーション能力」、「生活の質を向上させるものづくりの力」を養うことがあげられますが、こうした能力を育成することは、食品偽装等を含む食の安心・安全に関する諸問題の解決に関わる人材の育成につながります。

最後に、今年度の課題として、「知識と技術の定着を図る授業づくり」があげられます。分かる授業を行い、生徒に実践力を身に付けさせることが求められています。そのためには、指導や評価の工夫が大切です。特に、指導と評価の一体化が非常に重要です。授業の目標を明確に示して授業を行い、目標に沿った観点別評価を行うことが必要です。

以上、4点説明させていただきました。

それでは、提言についての講評をさせていただきます。

はじめに、滝上高校の山本先生のご提言は、生徒の実態を把握し、食生活ばかりでなく、地域の中で生きる生徒の生活に即した、生徒の思考力・判断力を育成する実践でした。養護教諭と連携し、生徒に自分の健康状態の実情及び課題について把握させ、目標をしっかりと設定させていました。また、町の保健師という地域人材の活用を図っており、大変参考になる事例で

あったと思います。山本先生が地域の方に関わってもらう意味について「その方たちが生徒を地域で支え続けてくれるからだ。」と述べておられました。私たちには、地域に託したり地域と連携する勇氣、私たちだけで抱え込まない勇氣が求められていると思います。地域人材の活用においては、事前の打合せなどにきめ細かな対応が不可欠ですが、日頃から保健師さんと連携を図っていることに加え、保護者に文書で周知を図るなどの準備を重ね、丁寧に取り組まれた実践であることが伺えました。

今後は、振り返りシートにまとめた内容を生徒自身に発表させたり、保護者も巻き込むなどして、一層効果的な実践にされることを期待します。

次に、滝川西高校の福間先生のご提言は、地域との連携を図ったフードデザインの授業づくりの実践でした。

市立高校として地域からの期待に応えつつ、生徒が農家の方と関わりながら畑で実際の食材に触れる取組は、生徒にとって大変貴重な体験になったものと思います。

評価につきましては、滝川西高校が学校全体で取り組まれている授業改善の中で英語科において作成しているCAN-DOリストを参考に、その家庭科版を作ろうとしているとのことでした。観点別の評価を実施することにより、指導と評価の一体化を図り、生徒の学習意欲を向上させ、確かな学力を付けさせることをねらいとしており、これを踏まえて授業改善にもつながる取組になると思います。他教科の取組にも学びながら研究を進めていくことはとても良いことです。専門教科「家庭」の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」などを参考にしながら今後も研究を進めていただくようお願いいたします。

今後の課題としましては、多くの小・中学校でも農業体験を実施していることを踏まえ、高校家庭科で農業体験をすることの意味、ねらいをより明確化することが必要であると思います。また、「食育と食育推進活動」として取り上げるのであれば、食育を受ける側から、高校

生として地域の方々に食育を推進していく観点も必要となってくるのではないのでしょうか。

最後に、稚内高校の川端先生のご提言は、先生が2年間悩みながら3年目を迎え、基礎的・基本的な知識・技能を生徒に定着させ、実生活に生かすために体験的な学習を取り入れたいという思いが伝わってくる素晴らしい実践でした。授業で得た知識や技能を、保育実習や高齢者施設訪問を通して現実のものとして体感させていました。そして、本校で10年以上前から取り組んでいた保育実習を生かし、家庭基礎において訪問実習にしっかりと取り組まれていました。事前学習では、重点目標を生徒に考えさせ、名札を作り、レクリエーションを考えるなど、随所に工夫が見られました。また、ワークシートを使って、事前と事後で生徒自身が自分の変容を捉えるように工夫をされていました。

今後は、評価についてワークシートにまとめるとともに、短い時間でもよいので、生徒がまとめたことを発表する機会を設け、クラスで共有をすることにも取り組んでいただきたいと思います。

以上、3名の先生のご提言について、お話をさせていただきました。

参加の皆様には、本日の収穫を学校や地域、生徒の実態を踏まえて実践につなげていただきたいと思いますし、ご自身の実践を学校のウェブページに掲載するなどして、家庭科の実践についての情報発信をしていただきますようお願いいたします。

道教委では、毎年発行している「教育課程編成・実施の手引」や「教育課程研究協議会」等において、本道における家庭科教育の方向性等を示しておりますので、機会をみてご確認いただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、北海道高等学校長協会 家庭部会長 小松校長先生、北海道高等学校家庭科教育研究協議会会長 佐々木校長先生、そして、細やかな心配りで本研究協議会を成功に導いて下さいました事務局校や運営研究員の教職員の皆様はじめ関係各位に、改めて深く御礼を申し上げ、講評といたします。

グループ別体験研修講座報告

実施日 平成 26 年 7 月 30 日 9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

A	環境教育セミナー
---	----------

1 主な内容

- ①DVD視聴
- ②札幌市リサイクルセンターの見学
- ③ゴミ分別ゲーム

2 参加人数 7名

3 講師 NPO法人 環境り・ふれんず
久木 あゆみ 氏

4 会場 札幌市生涯学習センター

【 研修内容・成果 】

札幌市ではダンボールを活用した生ゴミの堆肥化を普及させるために、講習会などの普及活動に努めている。その現状をDVDや施設見学を通じて研修を深めた。また、施設見学では壊れたおもちゃを無料で修理するおもちゃ病院、ゴミ分別方法の展示、エコクイズラリー、エコ製品販売コーナーなどの現状も視察した。

最後に講師の先生から暮らしの3Rを実践して、分別されたゴミが資源として有効に活用できるように消費者全員が責任を果たすことが大切だという話もいただき、充実した研修となった。



【講座担当者】 置戸高等学校 宮崎 円
深川東高等学校 白根美由紀
静内高等学校 大森 裕介

B	食育セミナー
---	--------

1 主な内容

- ① 講義「子どもたちの食の現状と、良い食とは何かを考えよう」
- ② 講義を受けての座談会

2 参加人数 23名

3 講師 NPO法人北海道食の自給ネットワーク
食育アドバイザー 大熊 久美子 氏

4 会場 北海道江別高等学校

【 研修内容・成果 】

講義では、「弧個食」を通り越して「バラバラ食」（メニューや食事時間がバラバラ）が増えていること、大皿料理から好きなものを好きな量食べさせ、食べることを強制しない家庭、チョコやガムを食べて「食事をした」と認識している子ども、電磁調理器の生活で「火は熱い」という実感がない子どもなど、現在の子どもの置かれている食の現状等について教えていただいた。

また、先生の食育講座に参加している子どもたちが、農家見学や調理実習を体験する中で変わっていく様子も大変興味深かった。

後半は、「まごわやさしい」弁当を食べながらの座談会となった。生徒に「食の大切さ」を教える中で、困っていることや成果について話し合うことができ、食育の大切さを改めて実感し充実した研修となった。



【講座担当者】 江別高等学校 岩瀬張幸子
函館中部高等学校 石川佳寿美
留萌高等学校 蒔田 直子
月形高等学校 菊池 美穂

C	住生活セミナー
---	---------

1 主な内容

①講話「住教育の大切さと

住まいや建物の基礎知識」

②実験「建て方による音の伝わり方の違い」

「簡単な結露の実験」

2 参加人数 11名

3 講師

北海道立総合研究機構北方建築総合研究所

馬場 麻衣 氏

4 会場 北海道江別高等学校

【 研修内容・成果 】

ライフステージと住宅選びについて講話があった。また、授業での住生活と他分野のリンク方法のアドバイスを受けた。たとえば衣生活では、北海道ならではの収納場所（おくゆき）を考え、布団をたたむ、大人の服・子ども服とで収納を比較させその大切さを理解させるなどである。

今後の住生活におけるキーワードは『高齢化』であり、授業では、高齢化を視野に入れた住居選び、更には職業選びをする重要性を伝えていく必要があると話された。

家庭科教育においては、現代社会の動静を見逃さないようアンテナを立て、生きるために最も必要な「衣食住」分野の充実の大切さをいかにして伝えていくかが今後の課題であると感じた。



【講座担当者】 江別高等学校 鈴木 朋美
小樽商業高等学校 角井 愛美
旭川龍谷高等学校 菊入あゆみ
豊富高等学校 佐藤 綾

D	家庭経済セミナー
---	----------

1 主な内容

①社会人になるための経済学

②カード社会の歩き方と借金問題

③社会保障制度とリスク管理

2 参加人数 15名

3 講師 北海道金融広報アドバイザー

須藤 臣 氏

4 会場 北海道江別高等学校

【 研修内容・成果 】

金融広報中央委員会「知るぼろ」とによる「これであなたもひとり立ち」自立のため WORKBOOK の活用方法を教えていただきながら講義を拝聴した。



子どもの教育費の試算では、金額を知ることによって家庭を持つことは無理だと思わせないことが大切であり、児童手当を貯蓄することで、奨学金を借りなくてもすむことを教えていただいた。

また、社会保障制度を生徒に理解させるために、教師が正しく理解することが大切であり、北海道の金融広報委員会に連絡すると無料講演やメールによる個人的な相談も受け付けていると話されていた。

生徒が社会にでて経済的自立を図るための最新の知識や情報、教員が生活を充実させるための視点も含めた講義を拝聴し、充実した時間を過ごすことができた。



【講座担当者】 倶知安高等学校 井上 明子
札幌西高等学校 伊藤 友美
野幌高等学校 池田 麻子

E	服飾文化セミナー
---	----------

1 主な内容

- ① 日本時代衣装展覧室見学
- ② 日本文化「家紋」についての講義
- ③ 十二単の着装と解説、着装体験

2 参加人数 6名

3 講師

NPO法人日本時代衣装文化保存会理事
小林豊子きもの学院北海道学院長

信田 豊愁 氏

4 会場 小林豊子きもの学院

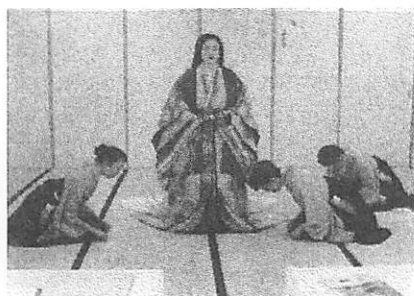
【 研修内容・成果 】

はじめに、その時代の生活背景の説明を聞きながら貴重な、すばらしい時代衣装を見学した。

その後、日本文化の一つである家紋について講義を受け、家紋には色々な意味があり、自分のルーツを知ることが出来ること、探っていくと大変おもしろいとの言葉に、興味関心を持つことができた。また、日本人は「精神性を重んじる」民族であり、家紋・きもの・糸・色など様々なものにもそれぞれの意味が込められていること、それを知っているか知っていないかでは、全然違うということをお教わることが出来た。さらに、日本人として文化をきちんと伝えていくことが大事であることを改めて考えさせられた。

後半は、十二単の着装について解説を聞きながら見学し、その後一人一人着装体験をし、十二単の

ずっしりとした重さを感じ講座を終えました。大変充実した研修となった。



【講座担当者】 札幌南陵高等学校 高橋 理緒
北見北斗高等学校 前田 恵子
音更高等学校 品田ひろみ
函館工業高等学校 金澤 久子

F	保育セミナー
---	--------

1 主な内容

- ① 講義「赤ちゃんの世界」と「子ども・子育て支援新制度について」
- ② 施設見学 札幌大谷大学附属幼稚園

短期大学部子育て支援センター

2 参加人数 19名

3 講師

札幌大谷大学短期大学部保育科教授

星 信子 氏

4 会場 札幌大谷大学短期大学部

【研修内容・成果】

講義では、大人とは違う赤ちゃんの知覚について、人の顔や声や動きをどう認識するか、新生児模倣や自分の体に対する認知、言葉のとらえ方や記憶力の特徴をお話いただいた。成長は上向きばかりではないことや、人とのつながりが子どもを育て、直接対面が大切であるなど、子どもの成長だけではなく学校教育でも基本となるコミュニケーションの重要性を再認識した。

また、子育て支援新制度に関して、認定こども園制度の現状、新制度のポイント、これからの幼稚園・保育園のあり方や指導者の資格等について理解を深めることができた。

講義後は短大内に設置されている子育て支援センターを見学させていただき、乳幼児や保護者に向けて様々な工夫や配慮がされているのを知ることができた。

時代と共に変化する保育環境について理解を深め、充実した研修となった。



【講座担当者】 札幌旭丘高等学校 丸岡ひとみ
札幌手稲高等学校 東 昌江
恵庭南高等学校 谷田 幸恵
中標津高等学校 芝田 愛佳

Ⅱ 平成26年度北海道高等学校家庭クラブ連盟の活動

北海道高等学校家庭クラブ連盟の活動について

北海道高等学校家庭クラブ連盟成人会長

(北海道江別高等学校) 小 松 芳 幸

平成26年度の北海道高等学校家庭クラブ連盟は前年度の加盟校数15校を上回る19校の加盟をいただき、予定していた全ての事業を無事に終了することができました。加盟校の諸先生方を始め、ご支援ご協力をいただいた全ての皆様に厚くお礼申し上げます。

さて、第63回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会北海道大会が次年度に迫ってきました。今年7月30日～31日に札幌市教育文化会館で開催されるこの大会には、全国から1,200名の参加が予定されています。大会の成功に向けて、昨年度から当別高校に事務局を設置し、杉本校長先生を実行委員長に実行委員会を組織して準備を進めてきました。すでに7回を超える専門部会、実行委員会を開催し、着実に準備は整いつつありますが、全国から集う生徒や関係者を温かく北海道に迎えるために、特に家庭科教員の手が足りない状況にあります。

今後、特に道央圏の連盟非加盟校の先生方にも協力依頼をさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いします。

次に今年度の諸事業について、概要を報告します。8月28日・29日に札幌市教育文化会館を会場として、平成26年度北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会が開催されました。主管校としてご尽力いただきました札幌北高校の諸先生方に心より感謝申し上げます。

研究発表では「ホームプロジェクトの部」で札幌北高校2年向畑優さんの「めたぼう（メタボリックシンドローム＋多忙）パパを優がレスキュー！！」、「学校家庭クラブの部」で美唄

尚栄高校家庭クラブの「もつとのキセキ 2014～ビバ（万歳）！もつ革命」がそれぞれ最優秀賞に輝き、次年度開催の全国北海道大会への出場権を獲得しました。今大会では次年度の全国大会に向けて、礼法をしっかりと身につけるため「マナー講習会」も実施されました。

また、7月31日・8月1日には山口市民会館で第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会が開催されました。北海道ブロックの代表として「ホームプロジェクトの部」で札幌北高校3年百瀬美樹さんの「父と家族の健康単身赴任（忍）者修行」が準優勝に相当する「産業教育振興中央会賞」を受賞するとともに、クラブ員投票で最多数の支持を得て「クラブ員奨励賞」を受賞しました。「学校家庭クラブの部」には名寄産業高校家庭クラブの「高齢者ソフト食に関する研究～食べる楽しみをいつまでも～」が出場し、全国の各代表に引けをとらない堂々の発表ぶりでした。

家庭科で身に付く力として ①生活の知識と知恵 ②思考力、判断力、表現力 ③コミュニケーション力 ④課題解決能力 などが挙げられます。「自分に自信が持てるようになる」「物怖じしない人と関われるようになる」「目標に向かって頑張れる」「主体的に生きる力を身につけられるようになる」これらは全て「たくましく生き抜く力」に直結するものであり、これらを身に付け、生徒を変容させるためにも家庭クラブ活動は非常に有効です。次年度もより多くの学校に連盟への加盟をお願い申し上げ、今年度1年間のお礼とさせていただきます。

第55回全国高等学校家庭クラブ連盟 指導者養成講座に参加して

北海道江別高等学校教諭 佐々木 久美子

第55回全国高等学校家庭クラブ連盟指導者養成講座が7月24日、25日の2日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで、全国から68校87名の生徒と、顧問55名が参加し開催されました。今回の養成講座に、北海道の代表として本校 生活デザイン科1年生 齊藤百英さんと2名で受講させていただきました。

1日目は開講式後、クラブ員と顧問がそれぞれのプログラムで講座を受講してきました。顧問分科会では「学校家庭クラブ活動を通して育まれる力」というテーマで、自校の実践事例「交流活動」「研究活動」「ボランティア活動」の3例と、「私の学校家庭クラブ活動の工夫」では、活動の様子を紹介する写真などを持ち寄り各地域の活動状況の報告をして運営課題と解決方法について話し合いをしました。各校の実践事例報告交流会では、「いいところ探し」の意見交換で、各校の実践発表を説明してもらい「いいところ」を、他校の先生方にあげていただき応援メッセージを書いて交換して、お互いの励みとなった研修でした。午後からの体験講座では、生徒クラブ員と一緒に、講師の保健師 松田一重さんの指導で、「こっとなでパステル」を行いました。綿を丸めて筆代わりにして、パステルを擦り、型紙を使用して塗り描き、簡単に絵葉書を制作することができるという講座でした。色々な場面で簡単に応用できるこの講座内容を、道内の他の高校にも活用できるように報告したいと思いました。その後、福島県立福島北高等学校教諭 急式祐子先生の「地域に根ざした学校家庭クラブ活動」と題しての実践活動の

報告がありました。家庭科での学習を活かして校内や地域社会の生活の充実・向上を目指した実践的な食育やエコ活動や校内と地域での交流活動などについてでした。また、東日本大震災で、原発10km圏内にあった富岡高等学校の一部の生徒達が避難し、校舎を共有した際の交流活動についても発表されました。

2日目は、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 望月昌代氏による講義がありました。高等学校における家庭科の位置付けとその重要性について、家庭科でねらう力を明確にした「授業改善」のポイントとして、生活理論とともに、実験・実習を通して実践力をつける、問題解決力、意志決定能力をつける、指導方法の工夫→言語活動との関係を重視→思考力・判断力・表現力などの育成をあげられ、家庭科の充実・活性化は、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動の充実が重要であること、教科からの発進力を高め外部へアピールするポイントなど具体的な講義内容でした。あらためて家庭クラブの重要性について勉強するよい機会になりました。その後は、前日の分科会の継続となり最後にまとめとして各グループ毎の成果を発表し指導助言者の先生方による講評で終了しました。

各地域の特徴を活かして活動されている先生方の研究熱心な報告は、本当に素晴らしいものでした。様々な実践を聞いて、少しでも自身の今後に繋げていかなければならないと思いました。有意義な機会を与えていただいたことに深く感謝申し上げます、報告とさせていただきます。

第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会

北海道代表出場校として（ホームプロジェクトの部）

北海道札幌北高等学校教諭 田 畑 優香里

平成26年7月31日（木）・8月1日（金）、山口市市民会館で開催された第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会ホームプロジェクトの部の北海道代表校として、生徒5名（発表者は3年百瀬美樹、補助者は3年飯塚友菜・2年尾関紗都子・松田真奈・向畑優）を引率させていただき、家庭クラブ連盟の関係者の皆様に心より感謝いたします。

山口大会のスローガンは、「西の京やまぐちから全国へ みんなで架けよう 希望のアーチ」。特に当番県のクラブ員の皆さんは、謙虚かつフレンドリーかつ的確な対応で、「見習わなくては」と生徒たちが話していました。

本校の発表テーマは「父と家族の健康単身赴任（忍）者修行!!」発表者の百瀬さんは、H24・25年度、補助者として全国大会に出場した経験が生き、リハーサル・本番でも、自然体で彼女らしい発表をしているなど感じました。補助者4名のチームワークもいつも通り。私はチェックしつつ、生徒の姿の記録も担当しました。

北海道は次期開催地であるため、下見を兼ねるとともに閉会式の次期開催地紹介を行いました。（発表者は松田、PCは尾関）この発表では写真の著作権許諾をいただくことが最も大変で、何度も画像の作り直しをしました。ご多忙の中、旭山動物園の職員の方をはじめ、道内の関係機関の皆様のご協力に、この場をお借りして「ありがとうございます。」とお伝えしたいです。



（生徒5人のピースで星）（次期開催地発表の画像）

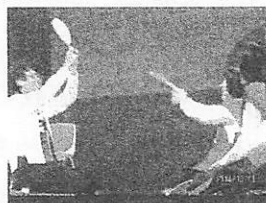
さて、発表後の講評では、「単身赴任中の父親の

食生活改善に様々な方法から取り組んでいる研究。ネーミングを工夫しイラストを活用するなど三年間の長きにわたる内容が分かりやすくまとめられている。科学的データが集約され父親の食生活の改善の様子も明確である。ストーリー性がありユーモアに溢れ、聞き手を飽きさせない発表。」と評価され、結果は、産業教育振興中央会賞（準優勝）とクラブ員奨励賞の受賞となりました。

私は、頑張る生徒達や周りの方々のおかげで、全国大会9回目の出場を果たすことができました。そして、H17年度は千葉県教育委員長賞（3位）、H20・22年度は文部科学大臣賞、H24年度は産業教育振興中央会賞（準優勝）、H25年度は文部科学大臣賞と初のクラブ員奨励賞、今年度で6度目の入賞です。早速、タフな生徒達と来年度の全国出場を目指し大会終了後から始動し始めました。



今回の大会で特に印象に残ったのは、防府商工高等学校のアトラクション伝統神事「笑い講」と「世界お笑い協会」です。これは「笑い講とお笑い講で世界中に笑いを広める運動」として、日本ユネスコ協会連盟の「未来遺産」に山口県で初めて認証されたそうです。生徒達とともにたくさん笑ってきました。また、山口県の食文化である「瓦そば」にも出会えました。現在は来年度の出場権を獲得し、生徒達と多忙な日々を送っています。



（笑い講）



（瓦そば）

第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会

北海道代表出場校として（学校家庭クラブ活動の部）

北海道名寄産業高等学校 榎原 しほじ

第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会が、平成26年7月31日・8月1日の二日間山口市にて開催され、学校家庭クラブの部に家庭クラブ3年生4名と参加させていただきました。

生徒はもちろん私自身も初めての全国大会参加でしたので不安もありましたが、山口県の実験家庭クラブ員や当番校の先生方が、親切丁寧に対応してくださり、なんとか無事に発表を終えることができました。

家庭クラブ活動の部は、全国7ブロック7校が参加し、生活に関わるさまざまなテーマの発表がありました。本校は1番目の発表ということで、生徒は発表前とても緊張していましたが、これまで何度も練習を重ねてきたこともあり、本番は落ち着いて発表することができました。

本校は、「高齢者ソフト食に関する研究～食べる楽しみをいつまでも～」という題目で、2年間継続して研究を続けてきた成果を発表しました。

この研究は、生徒が1年次で「家庭看護・福祉」の科目を学んだことや、クラブ員の中に介護福祉士を目指している生徒がいた事等がきっかけとなり、地域の高齢者の方々の役に立つ食事に着目してスタートしました。高齢者の食事を調べていく中で、近年普及し始めている「高齢者ソフト食」という普通食のような形状で味もよく安全性の高い食事の形態があることを知り、北海道ならではのソフト食メニューの開発を進めてきました。地域の特別養護老人ホームと連携し施設の行事で「ソフトいもち」や「ソフトかぼちゃもち」を提供や、完成したレシピ集を地元の商店や地域のお祭り等さまざまな場面で配布し普及活動を行

うなどしました。また、「高齢者ソフト食」の第一人者で「高齢者ソフト食研究会」の会長に思いきってレシピ集をお送りしたところ、宮崎県からはるる名寄へお越しいただき講習会を開いてくださったこと等、地域の枠から更に視野を広げ、より専門性を高めることができました。研究活動が地元新聞に掲載されたり、地域の方々から、励ましの言葉をいただいたりと、多くの方々に支えられて研究活動を続けられたことに大変感謝しています。生徒も2年間の研究活動をとおり、思考力や行動力、コミュニケーション能力など多くの力が確実に身につけ成長を感じることができました。

結果は上位入賞には至りませんでしたが、「研究経過がよく伝わってきた」「試行錯誤の様子がよくわかり、地域への普及活動もていねいに進められている」などの講評をいただき励みになりました。また、内容・発表方法ともにレベルの高い他校の実践発表を見ることで、生徒も刺激を受け大変勉強になりました。

今回の発表が縁となり、11月に宮城県で開催された第24回全国産業教育フェアでも発表する機会をいただきました。

来年度は、北海道で全国大会が開催されます。心のこもったおもてなしで、全国の方々と交流を深められることを楽しみにしています。



第63回北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会を終えて

北海道札幌北高等学校 教諭 田 畑 優香里

平成26年8月28日(木)・29日(金)、札幌市教育文化会館で、第63回北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会が開催され、当番支部チーフ校を本校家庭クラブ執行部生徒・教職員が担当させて頂きました。

担当の石狩支部内での主な分担は、代議員会・総会・全国指導者養成講座報告が道連事務局の江別高等学校、生徒研修北海道大会第1回生徒実行員会は当別高等学校、生徒研修マナー講習会は札幌南高等学校、全体的なサポートは前年度当番チーフ校の札幌丘珠高等学校、審査委員として札幌啓成高等学校・北星学園大学付属高等学校の顧問の先生にもご尽力いただきました。大変、お世話になりました。ありがとうございました。

今年度も研究発表校9校(学校家庭クラブ活動の部5校、ホームプロジェクトの部4校)、参加校2校から90名の生徒が参加しました。「当日は生徒主体で運営できるよう準備をしたい。」というのが本校生徒の意向でした。失敗や不十分な点は多々ありましたが、積極的に行動し、解決に導き、成長した生徒たちの姿が印象的でした。

参加されたクラブ員の皆さんや顧問の先生方のお力添えのおかげで、無事担当業務を終了できました。本当にどうもありがとうございました。

研究発表の結果、学校家庭クラブ活動の部は「もつとのキセキ 2014〜ビバ(万歳)！もつ革命〜」美唄尚栄高校家庭クラブ、ホームプロジェクトの部は「めたぼう(メタボリックシンドローム+多忙)」札幌北高等学校2年向畑優さんが最優秀賞を受賞し、平成27年度北海道で開催される全国大会出場となります。当番県業務分担と両立させながらの代表校準備作業になりますが、頑張りましょう。

平成27年度全道大会担当支部は9月中の開催で、担当支部は石狩支部、担当チーフ校は北星学園大学付属高等学校です。



(北海道大会第1回生徒実行委員会)



(表彰式)



(表彰された皆さん)

(札幌北高等学校メンバー)

1日目：8月29日(木)		1日目：8月29日(木)	
時 間	内 容	時 間	内 容
9:10～9:20	参加校受付	15:40～16:10	生徒研修①北海道大会生徒実行委員会
9:20～10:00	設営要領説明・会場設営	16:10～17:20	生徒研修②マナー講習会
10:00～10:10	発表校打ち合わせ	15:40～17:00	審査会議
10:10～11:35	リハーサル	2日目：8月30日(金)	
11:10～11:40	審査委員会(受付11:00～)	時 間	内 容
11:40～12:30	昼食	9:00～9:05	受付
12:30～13:10	代議員会	9:10～11:00	家庭クラブ活動の部発表
13:15～13:45	開会式	11:00～11:45	審査委員会
13:55～15:25	ホームプロジェクトの部発表	11:10～11:45	総会
15:30～15:40	全国指導者養成講座報告	11:55～12:45	表彰式・閉会式

Ⅲ 北海道家庭科技術検定の活動

家庭科技術検定の実施について

北海道高等学校家庭科技術検定委員長

北海道当別高等学校長 杉 本 祐 子

家庭科技術検定は、平成24年度より本校が事務局を担当しており、最終年度となりました。

今年度におきましては、受験者数は昨年度に比べると約100名減少しましたが、新たに取り組んでいただいた学校があり、受験校数が41校から44校と3校増えました。これもひとえに専門委員の先生方のご尽力と各校のご理解とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

さて、平成26年度家庭科技術検定の状況について、次のとおり報告させていただきます。

1 事業報告

(1) 専門委員

役 職	学 校 名	氏 名
全国・北海道(和服)	函館大妻	西 本 千 春
全国・北海道(洋服)	江 別	紀 國 明 子
全国・北海道(食物)	当 別	村 田 ひ ろ 美
北 海 道(被服)	美 唄 尚 栄	駒 谷 綾 子
北 海 道(食物)	洞 爺	櫻 庭 頌 子
北 海 道(食物)	名 寄 産 業	荒 木 恵 理

(2) 諸会議・講座等

- ①常任委員研究協議会 H26. 4. 23
- ②第1回専門委員研究協議会 H26. 4. 23
- ③家庭科技術検定全国専門委員会H26. 5. 13、14
- ④第2回専門委員研究協議会 H26. 7. 30
- ⑤家庭科技術検定評価研究協議会・検定員養成講座 H26. 7. 31

養成講座の内容は、食物調理技術検定3級の実技実習と評価研究、被服製作技術検定4級

の解説、実技実習と評価研究で、全道から10名の先生方の参加がありました。

2 受験者数と過去4年の推移

	種 目	H26	H25	H24	H23	H22
4級	被服	315	392	238	241	314
	食物	1,106	1,156	1,207	1,472	1,161
3級	被服	154	211	159	202	163
	食物	786	728	661	630	637
2級	和服	76	71	77	90	81
	洋服	50	49	90	47	64
	食物	305	294	293	233	291
1級	和服	51	53	43	62	49
	洋服	45	51	41	51	42
	食物	173	168	141	192	131
合 計		3,061	3,173	2,950	3,220	2,933

3 検定実施校数

年 度	H26	H25	H24	H23	H22
実施校数	4 4	4 1	4 2	4 0	4 0

最後になりましたが、皆さま方のご協力で、事務局の任務を終えることができました。ありがとうございました。次年度より、名寄産業高等学校が3年間、本検定の事務局校になります。

昨年度にも触れましたが、家庭科技術検定（食物調理・被服製作・保育）の一元化が進められています。今後とも、本技術検定にご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成26年度全国高等学校家庭科技術検定

全国専門委員会に参加して

北海道当別高等学校教諭 村田ひろ美

全国高等学校家庭科技術検定全国専門委員会は、検定の趣旨を確認する、運営上の諸問題を解決する、検定評価基準の目を揃える、等の目的のために、毎年実施されています。今年度は、5月13日（火）、14日（水）の両日に、東京都「アルカディア市ヶ谷ホテル」で行われました。北海道からは函館大妻高等学校、北海道江別高等学校、北海道当別高等学校からそれぞれ1名が参加をしました。

1. 全体会

全体会では、平成25年度技術検定の受検状況の報告や受検に関する書類の説明がありました。受検者数は食物技術検定と被服技術検定の4級で、増加が見られました。普通科基礎科目の授業で取り組む例が増え、受検の裾野が広がっているようです。保育技術検定も、総受験者数が増えました。来年度からは食物、被服、保育の検定が統一され、今後の技術検定の充実に期待が寄せられています。

2. 分科会

分科会は被服製作と食物調理に別れて研究討議が行われました。

私は食物調理分科会に参加をしました。最初に、作問委員会から報告がありました。筆記試験出題の留意点として、献立や調理など実技に関する問題を取り入れる、単元の枠にとらわれない総合的な問題を作成する、できるだけ幅広い分野から出題する、丸暗記では解答できない問題作成に努める、過去に出題された問題は数年間使用しない等があげられ、説明がされました。

引き続いて、平成26年度技術検定の実施要領

について確認がなされました。

最後に、本部委員から評価基準について解説がありました。その多くの時間が2級の黄身酢について割かれ、会場からも多くの質問があがりました。黄身酢は日常ではあまりなじみがないため、学校現場では仕上りの色や加熱加減等の指導が難しく、課題が山積しているようでした。会場には、目あわせのために多くの写真が準備され、大変詳しい資料が準備されていました。委員の方々の熱意に頭が下がる思いでした。

3. おわりに

今回、全国専門委員会に初めて参加をさせていただいて、全国から集まる先生方の熱い思いと様々に工夫された取組を知りました。また、全国に技術検定の歴史の重みや意義がしっかりと浸透して、揺るぎないものになっていることを感じ、感銘を受けました。私も全国専門委員の一員として、全国高等学校家庭科技術検定のさらなる発展と充実に、少しでも貢献できるように励んでいきたいと思います。

IV その他家庭科教育・研修会に関する報告

平成26年度第52回北海道高等学校教育研究大会 教科別集会家庭部会を終えて

北海道札幌白石高等学校教諭 北村 仁 美

平成27年1月9日(金)札幌エルプラザ3階ホールにおいて、研究主題「生涯を見通して生活を創造する力を育む家庭科教育」のもと、道内各地から71名の参加を得て開催した。

1 総会

平成25年度事業報告・決算報告・会計監査報告、平成26年度事業計画・予算案が承認された。平成27年度研究主題については、役員会・運営委員会に一任された。

2 講演

演題：「家庭科は現代社会をどうとらえるか
～人生90年を生きぬくりテラシィの形成をめざして～」

講師：横浜国立大学 教育人間科学部

学校教育課程 家政教育講座 准教授

工 藤 由貴子 様

文部科学省において長きにわたり初等中等教育局主任教科書調査官をされ、現在は家庭科教員養成や関係書物のご執筆をされている。国際長寿センター主任研究員のご経験もお持ちで、「長寿化する人生」と「高齢化する社会」を『生活する力』と『それを育む家庭科』という視点からお話いただいた。

高齢社会は新しい社会なのであり、人間の発達は多次元性・多方向性に富み、生涯を通して新しい行動の変化を経験する。長寿化は人生の全体図を変えるものであり、どのような状態の人も発達するのであるということと、「主体的生活者」であるような環境の形成に自らかかわるという生活マネジメントとしてとらえることができる。人生90年時代は、これらを共につくり上げる新しい社会モデルであると言える。

3 研究協議

(1) 研究発表

主題：「高齢社会を考える授業実践

～共に生き共に支える社会を目指して～」

発表：北海道札幌啓成高等学校教諭

小 田 美 穂

高齢者イメージ調査、高齢者疑似体験教材や動画コンテンツを使い共通の理解度を深める授業実践であり、グループでの話し合いによって言語活動も充実させている内容であった。

(2) グループ協議・情報交換：「豊かな高齢期を迎えるしくみ～ダイヤモンドランキングを考える～」各グループに分かれ、研究発表で用いられたダイヤモンドランキングを考え話し合い、さらに授業での実践等の情報交換がされた。運営委員よりまとめ・報告を行った。

(3) 助言：北海道立教育研究所 企画・研修部

研究研修主事 石 川 博 史 様

言語活動や動画コンテンツを活用することで生徒の学習意欲と理解度が増し、学力の向上につながる。振り返りの時間を設けることでさらに認識度は高まるという助言をいただいた。また、目標と指導と評価の一体化、観点別評価についての説明も加えられた。

4 研究紀要

『学校設定科目「福祉と手話」(手話分野)の取組について』

北海道千歳北陽高等学校教諭 古御堂 敦 子

手話に関する科目を教育課程に取り入れ、生徒がどのように変化したか、「生きる力」やコミュニケーション能力との関係性についても深く研究された内容である。

平成26年度北海道産業教育フェア

さんフェア2014を終えて

北海道江別高等学校教諭 紀 國 明 子

1 日時・会場

平成26年度10月4日(土)

札幌駅前通地下歩行空間・道庁赤れんが庁舎



発表校：洞爺高校

＜意見体験発表大会＞

発表校：置戸高校、三笠高校

「産業からつくり出す“もの”と“心”の贈り物」をキャッチフレーズに、工業、農業、商業、水産、家庭、看護、総合に関する学科設置校が結集し、協力連携のもと開催されました。

家庭部会ブースでは、限られたスペースの中、それぞれの特色や持ち味を活かし左記に上げた内容の展示、販売、実演・体験を、当別高校・洞爺高校・函館大妻高校・江別高校中心に運営しました。

道庁赤れんが庁舎(赤れんがホール)にて、行われた意見体験発表大会には、部会代表として置戸高校福祉科の澤目さんと、三笠高校食物調理科の中矢さんが出場し共に健闘、努力賞を受賞しました。

作品研究発表大会は、江別高校が運営事務局を務め、部会代表として、洞爺高校生活の高森さん、中村くんが出場しました。

3 終わりに

来場者数のべ200人、各ブースとも盛況でした。専門学科の日頃の活動や成果をアピール、発信出来る場であることを改めて痛感いたしました。大会予算削減、また初めての会場での開催等、手探りの運営であったため不安でしたが、各校の工夫と協力のもと無事終わることが出来ました。

末筆ではございますが、企画準備段階から苦勞をともにした、家庭部会学科設置校の生徒・教員の皆様その他支えてくださった関係各位に深く感謝申し上げます。

2 部会参加校及び内容

＜家庭部会ブース運営＞

- 江別高校：学校紹介パネル、商品企画パネル、ドレス展示、織物コースター販売、染めエコバック・PR葉書配布
- 当別高校：学校紹介パネル、絵本・紙芝居読み聞かせ、遊びの広場、手作りおもちゃ配布
- 洞爺高校：学校紹介パネル、ドレス展示、新聞エコバック講習、マドレーヌ販売
- 函館大妻高校：学校紹介パネル、ドレス展示、干支のマスコット作り体験
- 名寄産業高校：学校紹介パネル、ドレス展示、配布(高齢者レシピ・ボックスティッシュケース・ポケットティッシュケース・フェルト花ブローチ・包みボタンアクセサリ)
- 三笠高校：学校紹介パネル、マジパン細工展示
- 置戸高校：学校紹介パネル
- 江陵高校：学校紹介パネル

＜作品研究発表大会＞

事務局：江別高校

平成26年度北海道高等学校長協会家庭部会 意見・体験発表大会を開催して

事務局 北海道江別高等学校教諭 上 野 博 美

(1)大会を運営して

昨年度新事業として創設した意見体験発表大会を今年度も実施しました。これは、『全道の高等学校で家庭・福祉を学んでいる生徒が、日頃の学習で学んだことの成果について、意見や体験を発表するとともに、生徒相互の交流をと

おして、「生きる力」を育み、家庭・福祉教育の充実を図る』目的で企画されたものです。

8月22日に北海道江別高等学校を会場に行われ、普通科2名の生徒も含め道内10校14名の参加がありました。普通教科「家庭」から発展した「家庭選択科目」「家庭クラブ」などの体験や学び、専門学科ならではの体験など、この社会変化の中で、豊かな心をもって生き生きと活動している姿を見ることができました。

今後も、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる家庭・福祉教育の「生きる力」を感じる大会にしたいと思えます。昨年度より参加学校数、人数ともに微増し、普通科参加が減少しましたが、普通科生徒にとって人前で発表する機会が少ないので、是非この大会を活用していただければと思います。

来年度以降、この趣旨を踏まえ、さらなる発展を目指しますので、より多くの生徒が参加できますようご理解・ご協力のほど、よろしく願いいたします。また、運営等、至らない点多々あったことと思いますが、ご意見・ご感想などをいただき、さらに改善していきたいと考えています。参加いただいた各高校の生徒の皆さん、ご指導いただいた先生方に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(2)大会参加者

①剣淵高校 井川 愁

『私の求める福祉社会の理想像』

②洞爺高校 長尾 若菜

『高校生活で行動熱心になった私』

③当別高校 長谷川 友恵『保育士を目指して』

④札幌南高校 森岡 真優

『ここでしか学べないこと』

⑤三笠高校 中矢 有紀

『食のスペシャリストを目指して』

⑥剣淵高校 渡部 由唯

『介護福祉の現状と私の夢』

⑦江別高校 吉田 志穂

『家庭クラブ活動で得たこと』

⑧江陵高校 佐藤 千香『ありのままの自分』

⑨剣淵高校 中村 洋胡 『福祉と寺院～安心してお参りしやすいお寺にするために～』

⑩当別高校 高橋 あすか

『保育コースで経験したこと』

⑪名寄産業高校 打田 龍一

『私の未来設計図～調理師への道～』

⑫置戸高校 澤目 菜々『今の私にできること』

⑬更別農業高校 竹内 静 『お隣以上、家族未満～新しい家族のカタチ～』

⑭札幌南高校 吉川 麻衣『出会いの欠片』

(3)大会結果

最優秀賞 更別農業高校 竹内 静

優秀賞 三笠高校 中矢 有紀 ※

置戸高校 澤目 菜々 ※

※ 家庭部会代表として平成26年度産業教育意見・体験発表大会に参加しました。

平成26年度第2回北海道高等学校長協会家庭部会

意見・体験発表会 最優秀賞

指導者 北海道更別農業高等学校 教諭 田 中 裕 子

発表者 北海道更別農業高等学校 3年 竹 内 静

(1)最優秀賞生徒を指導して

北海道更別農業高等学校教諭 田中 裕子

発表者・竹内の意見発表を指導し「最優秀賞を取る」と2人で決意し出場した大会でした。

本校は農業高校ということで、家庭部会代表として産業教育意見・体験発表大会に出場することができなかった事は残念でした。

意見発表の指導を通して、生徒が将来の夢や家族について考え成長し、自信を身に付けた姿を見ることができました。今後も、様々な活動を通して、生きる希望や学ぶ喜びにあふれる教育を目指します。

(2)生徒原稿『お隣以上、家族未満

～新しい家族のカタチ～』

北海道更別農業高等学校3年 竹 内 静

“家族”。皆さんは、誰の顔を思い浮かべますか？

幼い頃に両親が離婚し、父に引き取られた私は、父、祖父母、曾祖母と暮らしていたのですが、7歳の時に祖母が病気で亡くなり、私が小学校6年生の時には父も亡くなり、それからは、現在90歳になる曾祖母が母として、70歳になる祖父が父として私を養育してくれています。そんな私たち3人家族に、近所で一人暮らしをしている60代の女性、藤原さんが加わる事となった出来事が、今年の1月に起こりました。

「ドスン。」冬休み最後の日、私と曾祖母2人で昼食を終えたときの事です。食器を片付けようと立ち上がりキッチンへ向かった曾祖母が家具につまずき転倒しました。

「大丈夫？」「痛くて動けない。」という曾祖母を見て、私は救急車を呼ぶと同時に近所の藤原さんに協力をお願いしました。家の事は藤原さんに任せ、曾祖母と一緒に病院へ。事故直後から藤原さんが居てくれたことで、私は落ち着いて救急隊員に状況説明する事が出来ました。

病院で曾祖母が検査を受けている間、以前、何気なく言った曾祖母の言葉を思い出しました。

「私が動けなくなったら、誰が世話をしてくれるのだろう。」

中学生だった私はこの言葉をきっかけに、介護福祉士になりたい！と夢を持ち「いつか私がばーちゃんを介護する！」と心に決め、現在、介護について学んでいます。

しかし、現実には曾祖母が動けなくなった今、私に、何が出来るのだろう。不安でいっぱいでした。

検査が終わり、曾祖母の長男の嫁である叔母と一緒に担当医からの説明を聞きました。

曾祖母は大腿骨を骨折し、手術で人工骨を入れることとなりました。私はショックでした。さっきまで元気に昼食を食べていた曾祖母が、

この先、スムーズな歩行が出来なくなり、障害者手帳を交付されるという事が。将来、曾祖母の介護をするために学んでいるのに、それが現実となった今、事実を受け止める心の準備ができていなかったのです。

曾祖母の手術は成功し、入院しながらリハビリを続けました。車いすから歩行器、そして杖を使った歩行へ、少しずつですが歩けるようになりました。そして曾祖母は「退院したら、長男の家で面倒を見てもらいたい。」と叔母に言いました。

私は、寂しい気持ちになりましたが、曾祖母の気持ちも大切にしたいと思いました。しかし叔母は「日中家に誰もいないしウチで面倒見ることは出来ない。だから…老人ホームに入りたい。欲しい。」と言うのです。私は唖然としました。身体が不自由になり、心細い曾祖母に対して冷たすぎる答えでした。

曾祖母は「老人ホームには入りたくない。」と私に泣きながら言いました。

このとき、「ばーちゃんとこの先も一緒に暮らして行く！」と私は決意したのです。

曾祖母と祖父は血縁関係の無い親子ですが、私たち3人は心がつながっています。そして今、近所に住む藤原さんも居てくれます。藤原さんは曾祖母が入院してから、毎日、我が家で夕飯を作り一緒に食べてくれ、昼食にはお弁当も持たせてくれます。それだけでなく、心の支えにもなっています。曾祖母の事故翌日から、実績発表大会の発表者として、3日間留守にする事が決まっていた私に、親戚は「ばーちゃんの側に居るべきだ。」と参加を反対しました。しかし

藤原さんが「家の事は私に任せて、静は大会に行っておいで」と言ってくれたのです。その言葉に甘え、私は大会に参加し、入賞する事ができました。藤原さんが居なければ、学校と曾祖母の見舞いそして家事のやりくりが出来なかったかも知れません。まさに、遠くの親戚より近くの他人です。

現在、曾祖母は退院し、家の中では杖を使わずに歩行していますが、介助が必要な場面もあります。私は藤原さんに手伝ってもらい、学校やインターンシップで学んだ介護の知識や技術を思い出し、曾祖母の入浴介助を実践しています。近所に住む藤原さんは今、私たち家族にとって大切な人なのです。

藤原さんの我が家への関わりを通して実感したこと。それは、少子高齢社会・核家族化が進む中、地域社会で支えあい、互いに協力しながら地域福祉に取り組む事が大切であるということです。

この出来事がきっかけで、私は将来、介護職に就き、地域福祉の推進役として働きたい、という目標を持つようになりました。人と人との繋がりを大切に、困った時に助け合う「顔の見える関係作り」に取り組みたいです。

お隣以上家族未満、血縁にこだわらず幅広い人間関係のなかで暮らす新しい家族の形。藤原さんが加わった私たち家族はこれからも互いに協力し、支えあっていきます。

心の繋がり、絆のある家族として。



平成26年度北海道高等学校

産業教育意見・体験発表大会に参加して

北海道三笠高等学校教諭 斎田 雄司

平成26年度産業教育意見・体験発表大会は、10月4日（土）北海道庁赤レンガホールにおいて開催された。

この大会の目的は、北海道内にある専門高校等に学ぶ生徒が、日頃の学習で学んだことについて、意見や体験を発表するとともに、その発表に基づき意見交換及び交流を行うことにより、関係者の認識を深め、産業教育の充実・振興に寄与することにある。本大会には、各部会より計14校が参加した（農業3校、工業2校、商業3校、水産1校、家庭2校、看護1校、総合学科2校）。参加校と発表題は次のとおりである。

新十津川農業「CHANGE」

倶知安農業「Face to Face～消費者との強いつながりをもてる馬場農園を目指して～」

帯広農業「十勝のカラマツを全国に！！」

旭川工業「社会基盤整備への夢

～土木技術者を目指して～」

小樽工業「確認することの大切さ」

下川商業「商業教育で見つけた夢」

札幌東商業「未来（あす）の自分へ、膨らむ夢は現在進行形」

富川「わたしの思い受けとめて」

小樽水産「3年間の大きな財産と未来への希望
～太平洋の中心で～」

置戸「今の私にできること」

三笠「食のスペシャリストを目指して」

※家庭部会代表

美唄聖華「五文字の贈り物

～患者様が教えてくださること～」

石狩翔陽「ライフプラン～自分を創る翔陽～」

池田「IKECOの軌跡

～マイナスからの挑戦～」

8月22日（金）に家庭部会主催で開催された意見・体験発表大会では、剣淵、洞爺、当別、札幌南、三笠、江別、江陵、名寄産業、置戸、更別農業の10校14名が発表し、本校食物調理科3年調理師コースの中矢有紀さんが家庭部会の代表者となった。

本校の食物調理科調理師コースは調理師養成課程に認可されており、調理師免許取得に必要な知識と技術を基礎から応用まで学ぶことができる。発表内容は、日頃の学習や課外活動などにどのような姿勢で取り組み、食のスペシャリストへとどのように成長していくかといった内容であった。中矢さんは調理師を目指して日々の学習に熱心に励むと共に、所属する調理部で夢の実現に向けて努力している。調理部では数々の料理コンクールに応募し、優秀な成績を収めてきた。その経験から、諦めずに努力し続けることがいかに難しく、大切であるかを身を持って感じる事ができた。京都で一流の料理人になるという夢を現実にするため、これからも、調理技術の向上のため、何事にも諦めずに努力をしていこうという決意が感じられる堂々とした発表であった。

皆さんの発表は、いずれも特色ある実践内容であるとともに、高い意識を持って日頃の学習に取り組んでいることが感じられ、深く感銘した。



【三笠高校食物調理科3年 中矢さんの発表】

平成26年度初任段階教員研修（道教委計画研修）

1 年次研修（高等学校）一般研修に参加して

北海道函館工業高等学校教諭 高橋 真理

1 期日 平成26年12月26日（金）

2 参加人数 136名（家庭科9名）

3 会場 北海道立教育研究所

4 研修内容

（1）説明・協議・演習

「生徒指導力・進路指導力」

講師 北海道立教育研究所研究・相談部

研究研修主事 土屋 靖雅 先生

北海道立教育研究所研究・相談部

研究研修主事 花田 貴 先生

内容 ① 生徒指導の在り方

② キャリア教育

（2）説明・協議「チーム貢献力①」

講師 北海道立教育研究所企画・研修部

研究研修主事 佐々木 貴信 先生

内容 ① 組織の一員として求められる

資質・能力

② 教職員の服務

（3）説明・協議

「地域との連携・対応力、チーム貢献力②」

講師 北海道立教育研究所企画・研修部

研究研修主事 澤村 巧 先生

内容 ① 保護者との連携

② 地域連携

③ 学校評価

④ 学校保健活動

（4）説明・協議「学級経営力」

講師 北海道立教育研究所企画・研修部

研究研修主事 石川 博史 先生

内容 ① 学年・ホームルーム経営のポイント

② 学習・生活規律

③ ホームルーム担任の業務の在り方

（5）協議「北海道の家庭科教育の現状と課題」

講師 北海道立教育研究所 企画・研修部

研究研修主事 石川 博史 先生

内容 ① 課題の交流

② 自己の課題認識

（6）説明・協議

「指導と評価の一体化を図った指導の在り方」

講師 北海道立教育研究所 企画・研修部

研究研修主事 石川 博史 先生

内容 ① 協議 授業実践の交流

② 説明 指導と評価の一体化を
図った指導の在り方

③ 観点別学習評価

（7）演習「指導と評価の計画」

講師 北海道立教育研究所企画・研修部

研究研修主事 石川 博史 先生

内容 ① 学習指導案の改善

② 発表

③ まとめ

（8）研修の振り返り

5 おわりに

このたび研修におきまして、諸先生方にはご多忙中にもかかわらず懇切丁寧な御指導を頂き、誠にありがとうございました。教員としての姿勢や使命感が一層高まり、教育に対する理解を深めることができました。このような有意義な時間を提供していただきましたことに、心より感謝申し上げます。今後は研修での体験を糧とし、責任と自覚を持って精進して参る所存でございますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成26年度10年経験者研修

教科指導等研修【Ⅰ・Ⅱ期】に参加して

北海道北広島西高等学校教諭 瀬 尾 敦 子

- 1 期 日 Ⅰ期：平成26年7月31日（木）
Ⅱ期：平成27年1月 5日（水）

2 目 的

教科指導等の教育課題について、個々の能力、適性に応じた研修を行い、指導力の向上を図る。

- 3 場 所 北海道立教育研究所

- 4 参加者 9名

5 運営者

- ・北海道立教育研究所 企画・研修部
研究研修主事 石川 博史氏
- ・北海道教育庁十勝教育局教育支援課
高等学校教育指導班指導主事 佐紺 摂子氏

6 研修内容

【教科指導等研修 Ⅰ期】

事前課題

- ・自校や自身の家庭科教育の現状と課題
- ・食育、消費者教育、環境教育の実践資料
- ・ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動の実践資料
- ・共通教科「家庭」の年間指導計画、1単位時間の学習指導案

○研修1：「自己課題の明確化」

自校の家庭科教育の現状と課題についてのレポート発表と交流

○研修2：「目標と指導と評価の一体化を図る指導の在り方」観点別学習評価などの説明

○研修3：「ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動の指導の実際」名寄産業高等学校 江崎恵子教諭の実践発表、各校の実践についての発表と交流

○研修4：「指導と評価の計画の作成」

「高等学校教育課程編成・実施の手引き」等を用いた観点別学習評価規準の設定についての説明、各自持参した年間指導計画と学習指導案の見直しと改善、Ⅱ期研修に向けた課業期間中

に実施する単元計画と学習指導案の作成

【教科指導等研修 Ⅱ期】

事前課題

- ・単元（題材）の指導と評価計画の作成
- ・課業期間中に実施した1単位時間の学習指導案
- ・授業実践プレゼンテーション資料の作成

○研修1：「授業実践の交流と学習指導案の改善」

第Ⅰ期研修で改善を図った「単元の指導と評価の計画」に基づいて課業期間中に実践した授業の発表、評価・改善策の検討

○研修2：「家庭科教育の現状と課題」

社会の変化に対応した家庭科教育の充実・向上にむけた取組と学習指導と評価のあり方についての説明

7 おわりに



教職経験10年以上となり、日々の授業の形骸化傾向に悩む中で、多くの先生方と課題の共有ができたことは自身の実践を見直す貴重な経験となりました。

家庭科教育が目指す「主体的に生活を創造する力や実践的な態度の育成」のため、今後も生徒が生き生きと学ぶ授業への工夫・改善に努めたいと思います。ご指導いただきました多くの先生方に深く感謝いたします。

平成26年度北海道高等学校家庭・福祉に関する学科設置校

教頭会・科長会研究協議会を終えて

北海道洞爺高等学校教頭 岩 瀬 均

北海道洞爺高等学校教諭 秋 田 貴 子

平成26年度北海道高等学校家庭・福祉に関する学科設置校教頭会総会・研究協議会が、11月14日（金）ホテルライフオー・札幌で行われました。学科設置校10校のうち、5校の出席となりました。（川口、濱名、岩瀬張、宮崎、岩瀬）

【総会・研究協議内容】

1 〈確認事項〉

（1）学科設置校教頭会の開催について

平成25年度江別高校教頭よりの引継ぎ事項「教頭会は当番事務局を江別高校に置き必要があれば招集する。」「教頭会会計は家庭部会に入れる。」「教頭会開催は必要により部会長が招集する。」を確認する。

2 〈協議事項〉

（1）学科設置校教頭会規約について

①確認事項を含む規約の改正。②申し合わせ事項の確認を行った。「役員の選出については、学科設置校教頭会理事長、副理事長、幹事は当面、該当する学校の教頭とし、平成27年4月1日から施行する。」など、規約の改正等を校長部会で検討していただくよう図っていく。

（2）家庭部会の関連業務の輪番について

校長協会家庭部会“こです”編集担当校の決定について、各校様々な当番業務を抱えているので、過去にさかのぼったローテーション表を確認しながら家庭部会へ伝えていきたい。

各種情報交換も含め、限られた時間の中での協議会でしたが、江別高校 岩瀬張教頭先生には、議題解決に向けた資料作成・進行を務めていただき、会員一同感謝申し上げます。

平成26年度北海道高等学校家庭・福祉に関する学科設置校科長会研究協議会は、6月24日（火）に江別高校を会場にして行われた。学科設置校10校のうち、6校7名の先生が出席した。

【研究協議内容】

1 規約について

現状に合うよう文言の見直しをするため、まず、科長会会長に原案を作成してもらい、家庭部会で検討していただくこととなった。

2 業務輪番について

平成27年度以降の業務輪番について確認した。業務分担が確定していない年度もあり、家庭部会において早急に決定していただくようお願いした。洞爺高校閉校のため、平成28年度からは学科設置校が9校とさらに少なくなるので、これまで以上に連携を密にし、協力して業務を分担していく必要がある。

3 HOKKAIDOさんフェア2014について

今年度は3年に一度の開催年度にあたり、また地下歩道空間という新たな場所での開催であるため、手探りの状態で打ち合わせを行った。特に、展示・演説・販売部門については、家庭科のブースを活気付けるために、各校で出展可能な内容を検討し、限られた予算の中で協力していくことを確認した。

最後にご多用の中ご出席いただきました、校長協会家庭部会長の小松校長先生はじめ、全道からお集まりの学科長の先生方には心より感謝申し上げます。

平成26年度第15回

福祉に関する教科・科目設置校研究協議会を終えて

主管校 江陵高等学校長 鈴木 譲二

《開催期日》

平成26年9月19日（金）

《開催場所》

帯広市とかちプラザ

《開会式》

北海道高等学校長協会家庭部会長小松芳幸
（北海道江別高等学校長）の主管者挨拶および
江陵学校長鈴木譲二（主管校）の挨拶で開会と
した。

《講演》

医療法人社団博愛会の牧野孝子様、佐藤千鶴
様、外山史教様、明道裕也様の4名より、①介
護の出来る「社会人」を育てたい、②介護保険
制度と「これから」、③顔晴（がんばって）ます
「卒業生」のビデオレターを含めたご講演をい
ただき、現場での指導促進にむけて、その方法
論や手法をお話いただいた。「教える」こと即
ち「支える」ことを通して育成されていること
に心強さを感じました。

《基調報告》

全国福祉高等学校長協会北海道理事である池
田延己函館大妻高等学校長より今年度高知県で
8月6日～8日に開催された全国福祉高等学校
長協会第20回総会・研究協議会の内容を中心
に報告がなされた。特筆すべきは、確認事項と
して、今年度で終了とされていた「介護福祉等
に係る講習会」は恒久的に次年度より行ってい
くことを確認。また、現状の全国加盟校数（208
校）、来年度から29年度に至る全国福祉大会開
催県の確認に及んだ。更に福祉を取り巻く情勢
について、①人口減少の局面を迎えての福祉の
在り方を探っていかなければならない点、②介
護従事者の状況の中で、依然としてマイナスイ

メージが生じており、人材参入の阻害要因とな
っている点、③処遇改善等々についても報告さ
れた。その後、東洋経済「誤解だらけの介護職」
特集の一部も紹介し、介護人材確保の方向性につ
いても触れた。

また、平成27年度から実施予定である介護福
祉検定についても説明があり、①1年生が高校
3年間の中で4級から1級まで取れるような資
格であること、②介護技術コンテストで介護技
術の向上を目指す、③受験資格は教科「福祉」
を履修している生徒、④受験料については受験
しやすく、計算しやすい値段とし、受験料の運
用についてはこれから検討していく。という報
告がされた。

《校長会確認事項》

1、北海道地区理事の確認

H23～H26年—函館大妻、H27～28年—置戸、
H29～H30年—江陵

2、研究協議会開催校の確認

H26—江陵、H27—剣淵、H28—置戸、H29
—大妻、H30—留寿都

3、介護技術コンテストについて

理事より流れの報告あり

《分科会》

1、福祉教科授業内容・教材研究

2、実習を行うにあたっての事前指導



研究協議会参加者 記念撮影

V 各管内（ブロック）家庭科研究会の一年間の活動状況等

石狩支部

◆実施日 平成 26 年 5 月 13 日 (参加者 33 名)

(1) 総会

(2) 研究発表・研究協議

・「家庭科こそが心の教育」

(発表者) 札幌手稲高等学校 東 昌江教諭

・「『発達と保育』の三年間を振り返って」

(発表者) 札幌西陵高等学校 松本 美子教諭

◆実施日 平成 26 年 10 月 7 日 (参加者 26 名)

視聴・研究協議

映画「うまれる」視聴・活用事例紹介

(発表者) 札幌啓成高等学校 小田 美穂教諭

◆実施日 平成 27 年 1 月 27 日 (参加者 30 名)

発表「消費者教育について」

(発表者) 北海道立教育研究所企画・研修部

研究研修主事 石川 博史 氏

講演「食品安全の基礎知識」

(講師) 農林水産省北海道農政事務所

消費・安全課調整係長 高橋誉志行 氏

渡島・檜山地区

◆実施日時 平成 26 年 10 月 24 日 (参加者 18 名)

(1) 研究協議Ⅰ「消費者教育について」

(講師) 北海道立教育研究所企画・研修部

研究研修主事 石川 博史 氏

(2) 研究協議Ⅱ「各学校の実態と課題」

(3) 実技講座

「シルクロール (生ロールケーキ)」

(講師) 株式会社はこだて柳屋

副社長 若杉 誠士 氏

後志管内

◆実施日時 平成 26 年 9 月 19 日 (参加者 8 名)

(1) 総会

・役員確認

・平成 25 年度事業報告

・平成 25 年度会計決算報告

・平成 26 年度事業案

・平成 26 年度会計予算案

等

(2) 施設見学

共和町メロン集出荷撰果施設



(3) 講演・研修

「地域に根差したこれからの住教育における

課題と体験的学習」

(講師) 地方独立行政法人北海道総合研究機構

建築研究本部 北方建築総合研究所

居住科学部 馬場 麻衣 氏



空知管内

◆実施日平成 26 年 6 月 6 日 (金) (参加者 19 名)

(1) 総会

- ・平成 25 年度 事業報告・会計決算報告
- ・空知高等学校研究会会則等の改正について
「平成 26 年度から空知管内は年 1 回のみ実施」
- ・平成 26 年度 会員・規約の改正案について
- ・空知管内高等学校家庭科教育研究会細則
〈変更案〉について
- ・平成 26 年度 事業計画案・予算案
- ・事務局ローテーションの確認
- ・南空知地区北空知地区のブロックについて
確認
- ・「事務局輪番」の変更案について

(2) 研究協議

- ・課題研究の取組について各校より情報交換
- ・各校の職場実習・インターンシップ等について
情報交換
- ・各校の調理実習時の衛生管理について情報交換
- ・平成 27 年度研究会の時期及び内容について
意見交換



旭川・名寄地区

◆実施日時 平成 26 年 8 月 4 日 (参加者 27 名)

(1) 総会

- ・平成 25 年度研究協議会報告
- ・平成 25 年度会計決算報告・監査報告
- ・役員改選
- ・平成 26 年度研究協議会計画 (案)・予算 (案)
- ・その他・確認事項

(2) 研究協議 1

「出前授業について、その活用と評価」

(3) 研修

「テーブルマナー研修」

◆実施日時 平成 26 年 11 月 14 日 (参加者 26 名)

(1) 研究協議 1

平成 27 年度提言準備委員会から

「平成 27 年度北海道高等学校家庭科教育研究協議会での提言に向けて」

(2) 講演・施設見学

- ・「高齢者を支える社会の仕組み」

(講師) 旭川市役所福祉保険部介護高齢課

課長補佐 伊藤 敦子 氏

- ・施設見学 旭川市介護付有料老人ホーム

◆実施日時 平成 27 年 3 月 27 日

(1) 役員会

留萌管内

◆実施日 平成 26 年 10 月 28 日 (参加者 5 名)

(1) 講演

「平成 26 年度消費者教育 教育サポートセミナー」

(講師) 北海道消費者協会

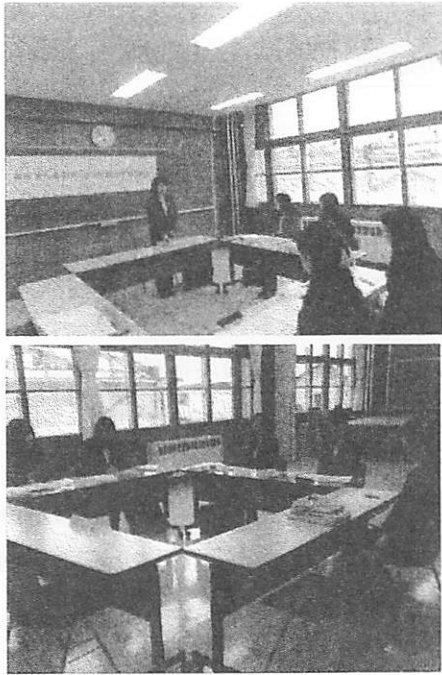
非常勤講師 中井 悦子 氏

(2) 総会

- ・平成 25 年度会計決算・監査報告
- ・規約確認
- ・その他

(3) 研究協議 I 「各校の実態と課題」

(4) 研究協議 II 「研究協議会の充実と将来像」



オホーツク管内

◆実施日 平成 26 年 10 月 15 日（参加者 17 名）

（1）総会

- ・平成 25 年度事業報告及び決算報告
- ・平成 25 年度監査報告
- ・平成 26 年度事業及び予算審議
- ・平成 26 年度事務局校、当番校の確認
- ・その他

（2）研究協議

「食生活分野について」

（3）実技講習

「地元産小麦を使用したパン作り」

（講師）小清水町産業課主任 秋田 憲人 氏



宗谷管内

◆実施日 平成 26 年 11 月 14 日（参加者 7 名）

（1）研究発表

「フードデザインにおける外部コンテストを
利用した学習指導について」

（発表者）利尻高等学校 安田 京子教諭

（2）研究協議

（3）講話

「高等学校における消費者教育の指導の
在り方について」

（講師）北海道立教育研究所企画・研修部
研究研修主事 石川 博史 氏

（4）意見交換会

「各校における実践と課題について」

- ・各校における新教育課程に伴う選択科目の
設置状況について
- ・指導要領改訂に伴う消費者教育分野の実践と
課題について
- ・宗谷管内高等学校教育研究会家庭部会の今後
の在り方について
- ・その他

釧根地区

◆実施日 平成 26 年 10 月 23 日 (参加者 19 名)

(1) 総会

- ・平成 25 年度事業報告
- ・平成 25 年度決算報告
- ・平成 26 年度事業計画 (案) について
- ・平成 26 年度予算案について 等

(2) 体験実習

「地域の食材を生かした調理」

(講師) レストラン&コミュニティ

「イオマンテ」シェフ舟崎 一馬 氏

・実習内容

*エゾシカメンチカツ

*エゾシカ肉のブレゼ タイ風カレー仕立て

(3) 講演

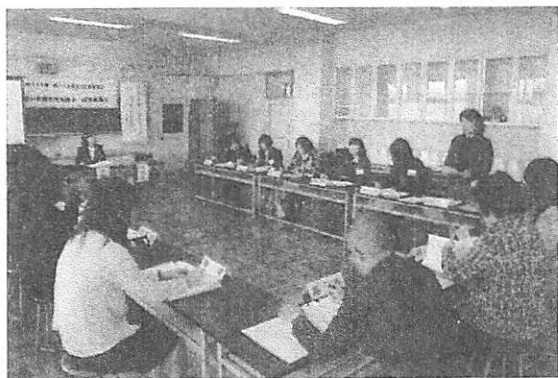
「学習指導要領を踏まえた消費者教育の推進」

(講師) 北海道教育庁十勝教育局教育支援課

高等学校教育指導班指導主事

佐紺 摂子 氏

(4) 情報交換会及び報告会



十勝管内

【全体会】

◆実施日 平成 26 年 6 月 5 日 (参加者 23 名)

(1) 総会

- ・平成 25 年度事業報告及び決算報告
- ・平成 25 年度会計監査報告
- ・平成 26 年度会員名簿確認 等

(2) 研究協議会

「つながり (小中高、地域、家庭、社会) を重視した家庭科教育のあり方」

◆実施日 平成 26 年 10 月 29 日 (参加者 16 名)

(1) 講演

「ものづくりの視点からみるバリアフリー」

(講師) 株式会社 ワールドワーク

代表取締役 川道 昌樹 氏

(2) 施設見学 本別町給食センター

(講師) 本別町給食センター

補 佐 菊地 敦 氏

栄養士 佐藤 洋子 氏

(3) 研究協議

「つながり (小中高、地域、家庭、社会) を重視した家庭科教育のあり方」

◆実施日 平成 27 年 2 月 3 日 (参加者 18 名)

(1) 講演

「消費者教育」

(講師) 北海道教育庁十勝教育局教育支援課

高等学校教育指導班指導主事

佐紺 摂子 氏

(2) 研究協議

「つながり (小中高、地域、家庭、社会) を重視した家庭科教育のあり方」

【ブロック研究協議会】

Aブロック

◆実施日 平成 26 年 9 月 9 日 (参加者 5 名)

(1) 研究協議

「つながり (小中高、地域、家庭、社会) を重視した家庭科教育のあり方」

Bブロック

◆実施日 平成 26 年 9 月 29 日 (参加者 8 名)

(1) 研究協議

「自立と共生という視点からつながりを
重視した家庭科教育のあり方」

◆実施日 平成 26 年 12 月 5 日 (参加者 8 名)

(1) 講演

「自立と共生という視点からつながりを重視
した家庭科教育のあり方～住生活～」

(講師) 地方独立行政法人 北海道総合研究機構

建築研究本部 北方建築総合研究所

居住科学部 馬場 麻衣 氏

(2) 研究協議

「自立と共生という視点からつながりを
重視した家庭科教育のあり方」

Cブロック

◆実施日 平成 26 年 7 月 28 日 (参加者 8 名)

(1) 研究協議

「つながりを重視した家庭科教材・実践報告」

◆実施日 平成 26 年 10 月 2 日 (参加者 6 名)

(1) 研究協議

「つながりを重視した家庭科教材・実践報告」

日高管内

【全体会】

◆実施日 平成 26 年 9 月 16 日 (参加者 5 名)

(1) 講義

「アイヌ文化における衣食住～地域と結びつ
いた家庭科教育の在り方について」

(2) 実習

「アイヌ刺繍の実践～衣生活の変遷と
文化の伝承」

(講師) 平取町教育委員会文化財課

学芸員 長田 佳宏 氏



胆振管内

◆実施日時 平成 26 年 9 月 5 日 (参加者 16 名)

(1) 総会

- ・平成 25 年度事業報告・決算報告
- ・平成 26 年度事業 (案)
- ・平成 26 年度予算 (案)
- ・管内事務局校および全道家庭科教育研究協議
会の提言者等の決め方について

(2) 交流会

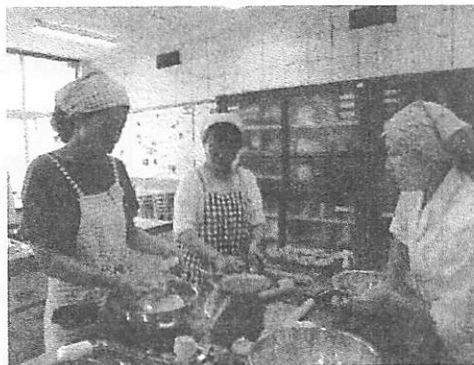
- ・各校における調理実習のプリント紹介

(3) 研修会

実習「自家製酵母を使ったパン作り」

(講師) 厚真町地域おこし協力隊

特産物開発支援員 高田 真衣 氏



各管内（ブロック）の家庭科研究会事務局・加盟校数一覧〔平成26年度〕

管内等		名称	運営母体	事務局（年度）		実施回数	①加入校数（管内数） ②加入教員数（管内数）
1	石狩管内	北海道高等学校教育研究会石狩地区支部家庭部会	高教研石狩地区支部	H26	札幌真栄高校	3回/年	①37校/68校 ②58名/127名
				H27	旭丘高校		
				H28	旭丘高校		
				H29	未定		
2	渡島・檜山地区	渡島・檜山地区高等学校家庭科部会	渡島・檜山地区高等学校教育研究会（地区校長会組織）	H26	清尚学院	1回/年	①26校/31校 ②34名/35名
				H27	函館白百合学園		
				H28	函館水産高校		
				H29	函館中部高校		
3	後志管内	後志管内高等学校家庭科研究会	後志管内高等学校教育推進委員（管内校長会組織）	H26	共和高校	1回/年	①17校/20校 ②20名/23名
				H27	小樽商業高校		
				H28	未定		
				H29	未定		
4	空知管内	空知管内高等学校家庭科研究会	空知管内高等学校家庭科教育研究会（管内校長会組織）	H26	岩見沢高等養護	1回/年	①26校（26校） （公立+私立+特支） ②65名/65名
				H27	奈井川商業高校		
				H28	月形高校		
				H29	深川高校		
5	旭川・名寄地区	上川地区高等学校家庭科教員研究会	上川地区高等学校教員研究会（地区校長会組織）	H26	旭川北高校	2回/年	①25校（31校） （公立+私立） ②42名/45名
				H27	旭川東高校		
				H28	鷹栖高校		
				H29	旭川南高校		
6	留萌管内	留萌管内高等学校家庭科教育研究協議会	留萌管内高等学校家庭科教育研究協議会	H26	羽幌高校	1回/年	①4校（7校） ②5名（5名）
				H27	天塩高校		
				H28	天塩高校		
				H29	留萌高校		
7	宗谷管内	宗谷管内高等学校教育研究会家庭部会研究協議会	宗谷管内高等学校教育研究会（管内校長会組織）	H26	礼文高校	1回/2年	①7校/7校 ②7名/7名
				H27			
				H28	利尻高校		
				H29			
8	オホーツク管内	オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会	オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会	H26	小清水高校	1回/年	①25校/26校 （公立+私立） ②28名/34名
				H27	東藻琴高校		
				H28	北見緑陽高校		
				H29	訓子府高校		
9	釧路地区	釧路地区高等学校家庭科教育研究会	釧路地区高等学校研究会（管内校長会組織）	H26	釧路北陽高校	1回/年	①21校/21校 （公立+私立+特支） ②25名/25名
				H27	標茶高校		
				H28	羅臼高校		
				H29	釧路明徳高校		
10	十勝管内	十勝管内高等学校家庭科研究会	北海道高等学校長協会十勝支部	H26	本別高校	3回/年	①23校/24校 ②33名/34名
				H27	帯広北高校		
				H28	清水高校		
				H29	上士幌高校		
11	胆振管内	胆振管内高等学校家庭科研究協議会	胆振管内高等学校家庭科研究協議会（管内校長会組織）	H26	厚真高校	1回/年	①22校/27校 ②33名/38名
				H27	伊達緑丘高校		
				H28	苫小牧東高校		
				H29	未定		
12	日高管内	日高管内高等学校教育研究会家庭科研究会	日高管内高等学校教育研究会（管内校長会組織）	H26	平取高校	1回/年	①7校/7校 ②7名/7名
				H27	静内高校		
				H28	静内農業高校		
				H29	浦町高校		

特 別 寄 稿

後輩の目標となる元気な家庭科教諭にエール

～家庭部会に感謝を込めて～

北海道千歳北陽高等学校 吉村 恭子

平成21年4月校長として北海道洞爺高等学校に赴任。専科のみの学校勤務は初めてでした。

早々校長の学校経営方針を職員から問われ、「家庭科が元気よく学校をリードして欲しい。全教職員でバックアップできる学校にしたい」と発言したことが鮮明に思い出されます。生徒の頑張りを地域の方に見て頂く方策として、学校開催の地域講習会の講師に生徒を起用したことや小学生との交流授業などの実践がありました。担当の先生が一番ハラハラしていたことでしょうが、生徒の内なる力の再発見もあり、私は、先生も生徒も頼もしく思っていました。

当時、被服・食物実習指導の先生方は、生徒に温かくも厳しい指導で、生徒とともに実習を受けていた私も、何度か緊張のあまりびくついたこともありました。生徒は、確実に成長し実習の腕を上げ、数ヶ月後には見違えるほど効率よく実習をこなしていました。その姿は、町教育委員会関係職員を驚かせるほどでした。

町立高校で、十分な予算もなく材料費に困った時には、いかに地元を理解してもらい協力者を募れるか、資金源になるイベント等にも数多くチャレンジしていました。小さな洞爺高校で開催しました、全道家庭クラブ大会の開会式で、大きな声で家庭クラブの歌を合唱する生徒を見て、明るい未来を感じ、心強く思いました。

洞爺高校での数々の経験は、その後の勤務校でも大きな力となりました。何よりも生徒の「やる気を引き出し、自信を持たせる」仕掛けの数々は、教師の工夫次第ではないでしょうか。

2校目の津別高校では、支部の教科研究担当校として「家庭、芸術、保健体育は、生きる力の源、家庭科の先生元気に頑張りましょう」と挨拶をさせていただきました。オホーツク管内は、「家庭クラブ活動」をしている学校が無く活動の輪を広げたいところです。津別高校も、活発に活動していた形跡が、水飲み場に貼られているポスターから伺えました。大変残念に思い、全道大会への特別参加をお願いいたしましたが、再開には至らず心残りです。

現在勤務しております千歳北陽高校は、フィールド制の普通科です。家庭科の選択科目の設定も多く、福祉の授業では手話もあります。赴任初年度の入学式では、式辞と祝辞に手話ボランティアを導入しました。家庭科の技術検定に力を注ぐ生徒もおり、本年度卒業式には3冠取得の表彰をする栄誉も与えてくれました。家庭科の教師を目指したいと笑顔で話す生徒に、心からエールを贈ります。専科ではなくても、「できる」を実践し、後輩の育成にも繋がっていることに「できない理由を挙げないで、やれることから頑張ろうよ」と全道の家庭科の先生にもエールを贈ります。

私は保健体育の教員ではありますが、小・中高校での「将来の夢」はデザイナー、保育士、栄養士でした。体育より家庭科が得意でもあり、実習の時間は最大の楽しみでもありました。縁あって、家庭専科の学校に赴任し、家庭部会の仲間に入れていただき、大変お世話になり本当にありがとうございました。

家庭部会の今後益々の発展を、心よりお祈り申し上げます。

家庭科教育は面白い

北海道札幌白陵高等学校教諭 伊 槻 久美子

38年間家庭科教育に関わり、多くのことを学ばせていただきました。それはダイナミックで面白く、手応えの大きな活動でした。

昭和52年、北海道標茶農業高校で教員生活のスタートをきり、家庭一般、被服、食物、保育、住居、家庭経営、農家経営、保健を担当しました。農業クラブの購買部担当、実績発表の指導、教務部、放送局顧問、風紀委員会、生活科担任とハードな生活でした。十分な教材研究もせずに、ただ勢いだけで臨んだ授業でしたが、生活科の優秀な生徒達は年齢のあまり違わない私と我慢強く付き合ってくれました。地域との交流もあり、食物研究分会の生徒を農家に2泊3日させていただき、食生活全般を生徒が行うという実践を行いました。また、分会生徒が研究開発した料理を地域の方々に講習するという貴重な体験もさせていただきました。

昭和56年、熱気球の町にある北海道上士幌高校に着任しました。生徒会活動を通じて学校集団づくりを実践しました。また一方で、家庭科男女共修に向けて機運が高まる中、学習会をしたり、署名活動を通じて、一日も早く共修が実現するようにと奔走して居りました。

昭和61年、北海道当別高校定時制農業科に着任し、平成元年から男女共修を先どりして始めました。生徒は熱心に授業に取り組み、案ずるより産むが易しでありました。荒くれた生徒達でしたが、自分自身の手で学校祭の仮装パレードに着るエイサーの衣裳を縫い上げたことで自信を持ったようでした。調理実習には真剣な表情で取り組み、試食のときには厳ついツッパリ達も優しい顔になっていました。そして、保育で見たVTRに涙していました。

平成7年北海道札幌稲西高校に着任し、家庭クラブに出会いました。校内で料理講習会をすると、調理室に入りきれない数の生徒が集まり、活動が盛り上がりました。また、全道の事務局や、研究大会の当番校も担当させていただき、大きな責任を果たすことができました。

平成19年北海道札幌白陵高校に着任し、生徒の食生活実態調査や労働アンケートを実施しました。当時、朝食欠食する生徒が多かったことから、費用を抑えて栄養改善しようと、生徒とともに「100円朝食（一汁三菜）」を開発し、調理実習しました。白陵高校は現在単位制となり、家庭基礎の他に、選択8科目を開設しています。家庭科目の選択希望者は多く、時間講師の先生と協力し、特色ある実習を取り入れて授業をしています。授業は生徒に好評です。

家庭科とともに生きてきた日々は実に面白く、学びの連続でした。それぞれの勤務校の生徒の実態、地域の背景に応じて、様々な学びがありました。自らの子育てを通して、教員として学び直すこともありました。日々進化し続けた38年間でした。家庭科教育実践の糸口はどこからでも発見できました。

家庭科教育は時代の変化、社会の変化により求められる役割に変化がありました。しかし、変わってはいけないことは、生徒の生活実態からスタートして授業実践を組み立て、課題解決に向けて生徒とともに取り組むことです。家庭科教育実践を通して生徒も教員も成長し続けることが、今もこれからも求められています。

北海道の家庭科教育に携わる皆様のご健勝とご発展を祈念し、特別寄稿とさせていただきます。

あ と が き

三月、地面が見え始め、ブーツからパンプスへと履き替え、春風を受けて歩けるようになってきました。この季節は、北海道高等学校長協会家庭部会の歩みもまた、一年を重ねることができたと安堵する時期でもあり、本部会誌「2015 こです HOKKAIDO」が完成する時期でもあります。

まずもって、お忙しい中、原稿を執筆してくださいました関係各位に、心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。

さて、今年度（平成26年度）の「こですHOKKAIDO」は、昨年度に引き続き本校が担当し、家庭科の秋田貴子教諭が中心となって編集・印刷等の作業を行いました。2年目を担当するに当たって少し余裕ができたせいでしょうか？昨年度の反省を踏まえて、今年度は間違いのない冊子作りを目標とし、確認や訂正等に時間をかけました。その中で「こですHOKKAIDO」が長年にわたり冊子としてカタチに残っていることは凄いことなのだと改めて感じました。

部会報を「こです」と改名し発行したのは、平成6年（1994年）。奇しくもちょうどその年は、高等学校学習指導要領の本格実施の年であり、高等学校における家庭科が男女必修となった年でもあります。二十年以上たち未だに「こですHOKKAIDO」が続いている事実は「継続は力なり」というより「力があるから継続したのだ」と思わざるを得ません。いかに情報化の時代となっても、活字に表される内容や行間に漂う関係者の思いは、ページをめくり、読むという行為によって伝わるからです。そして、いつの時代になっても、家庭部会のその年度の確固たる歩みを知ることができるからです。

今年度、本部会は、次の役員の校長先生方とともに歩みを進めました。ここに名簿一覧を付記するとともに、平成27年3月末をもってご勇退されます 本部会監事（千歳北陽高校）吉村恭子校長先生、事務局次長（江別高校）横田繁幸事務長に、心から感謝申し上げます。家庭科教育、校長協会家庭部会の発展にご尽力いただきまして誠に有難うございました。

部会長	小松芳幸（江別）		
副部会長	杉本祐子（当別） 佐々木淑子（洞爺）	池田延己（函館大妻）【道南】 増田雅彦（名寄産業）【道北】	
監事	吉村恭子（千歳北陽）【石狩】 福本直人（札幌南陵）		
理事	鈴木穰二（江陵） 今井悟（置戸）	高瀬雅朗（三笠）【空知】 【オホーツク】	
地区代表委員	河村英二（倶知安）【後志】 宮下聡（釧路明輝）【釧根】	藤井勝弘（音更）【十勝】	
事務局 （江別）	事務局長（教頭） 岩瀬張幸子 事務局次長（事務長） 横田繁幸		

（ ）は学校名 【 】は地区代表委員担当地区

裏表紙にあるとおり、「こです」の名称は、「集録」「家庭科」「研究」の英語頭文字をとって名付けられましたが、まさに、家庭部会の活動を「集録」し、「家庭科」に関する様々な取組が「研究」に繋がる可能性を秘めてまとめられ、「北海道はこうですよ！」と発信する冊子となりました。

「2015 こです HOKKAIDO」が家庭科教育の指針となり、これまでと同様に、これまで以上に、多くの高等学校で活用していただけたら幸いです。

平成27年3月31日

「こですHOKKAIDO」担当校
北海道洞爺高等学校長 佐々木 淑子

第63回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会（北海道大会）要項

北の大地で育もう 未来へひろがる 笑顔の輪

1趣 旨 全国高等学校家庭クラブ員の日頃の研究活動の発表と全国連盟の総会を行い、広く全国につながる
連帯感のもとに会員相互の研修を深め、家庭生活並びに地域社会の向上発展に資する。

2期 日 平成27年7月30日（木）・7月31日（金）

3会 場 札幌市教育文化会館

〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西13丁目 TEL 011-271-5821

4参 加 者 全国高等学校家庭クラブ員及び関係高等学校長・指導主事・教員 約1,200名

5参 加 費 一人につき 1,500円（資料代）

6主 催 全国高等学校家庭クラブ連盟 一般財団法人家庭クラブ
全国家庭科教育協会 北海道高等学校家庭クラブ連盟
北海道高等学校長協会家庭部会 北海道高等学校家庭科教育研究協議会

7後 援 文部科学省 全国高等学校長協会 全国高等学校長協会家庭部会
公益財団法人産業教育振興中央会 **NHK** 日本学校農業クラブ連盟
北海道教育委員会 札幌市教育委員会 北海道高等学校長協会 北海道産業教育振興会

8大会事務局 北海道当別高等学校 〒061-0296 北海道石狩郡当別町春日町84番地
TEL 0133-23-2444 FAX 0133-23-2380 E-mail fhj63taikai@hokkaido-c.ed.jp

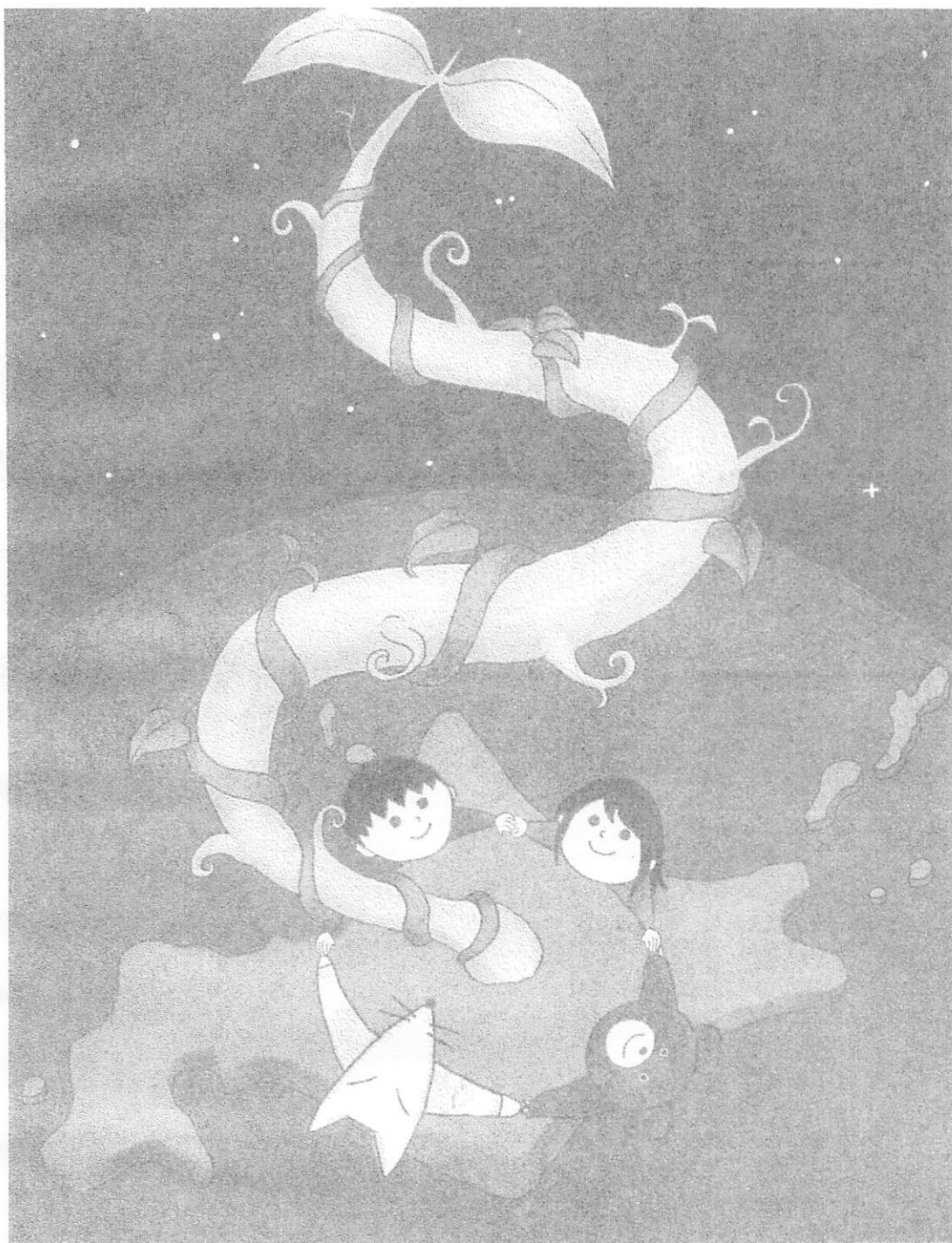
9日 程

7月30日（木）				7月31日（金）			
札幌市教育文化会館 小ホール		札幌市教育文化会館 大ホール		札幌市教育文化会館 大ホール		札幌市教育文化会館 大ホール	
役員会		大会第1日		大会第2日		大会第2日	
9:30	受付	11:00	受付	8:50	開場（受付）		
9:50	開会	12:20	開会	9:10	1 総会		
	1 開会のあいさつ		1 オープニング	9:40	2 研究発表		
	2 大会実行委員長あいさつ	12:40	2 開会式		「学校家庭クラブ活動」		
	3 議長団選出		① 開会のあいさつ	12:10	— 昼食 —		
	4 議長団あいさつ		② 国歌斉唱	12:55	3 アトラクション		
	5 議事		③ 家庭クラブの歌斉唱		4 FHJスカラシップ		
	① 平成26年度会務報告		④ 大会実行委員長		留学生報告		
	② 平成26年度決算報告		あいさつ		5 全国連盟事業報告		
	③ 平成27年度新役員承認		⑤ 主催者代表あいさつ		6 講評		
	④ 平成27年度新役員代表		⑥ 来賓祝辞		7 審査結果発表		
	あいさつ		⑦ 来賓紹介		8 研究発表者表彰		
	⑤ 平成27年度事業計画案		⑧ 激励のことば		9 閉会式		
	⑥ 平成27年度予算案		⑨ 祝電披露		① 連盟旗授受		
	⑦ 平成28・29・30年度		⑩ 連盟杯返還		② 次期開催地生徒代表		
	大会開催地について	13:30	3 研究発表		あいさつ		
	⑧ 平成28年度大会開催地		「ホームプロジェクト」		③ 次期開催地紹介		
	代表あいさつ	16:00	4 終了のことば		④ 閉会のあいさつ		
	6 感謝状贈呈		生徒交流会	15:20	閉会		
	7 閉会のあいさつ						
10:55	閉会						

北の大地で育もう 未来へひろがる 笑顔の輪

第63回

全国高等学校家庭クラブ研究発表大会



主催 全国高等学校家庭クラブ連盟／一般財団法人家庭クラブ／全国家庭科教育協会
北海道高等学校家庭クラブ連盟／北海道高等学校長協会家庭部会
北海道高等学校家庭科教育研究協議会

ポスター原画：北海道札幌北高等学校 鈴木 美穂 スローガン：北海道札幌南高等学校 辻 優太郎

平成27年7月30日(木)・31日(金) 札幌市教育文化会館

北海道実行委員会
事務局

北海道当別高等学校
石狩郡当別町春日町84番地4

TEL 0133-23-2444・FAX 0133-23-2380

E-mail: fhj63taikai@hokkaido-c.ed.jp

北海道高等学校長協会家庭部会　こですHOKKAIDO

発行日　平成27年3月31日
発　行　北海道高等学校長協会家庭部会事務局
（北海道江別高等学校）
編　集　北海道洞爺高等学校
印刷所　社会福祉法人　共有会　札幌福祉印刷
札幌市西区西町北15丁目5番7号
TEL (011) 667-7771
FAX (011) 667-9750

こ で す H O K K A I D O と は

Collected papers 集 録

Domestic Science 家 庭 科

Studies 研 究

家庭部会で研修して、それをまとめあげる
こーして仕上げることを、でかすと解釈し
北海道は、「こーですヨ」という意味です